

認定番号：1 サポーター名：株式会社エコノス

- 取組実績**
1. 社員名刺への流域治水ロゴマークの記載
  2. 近隣の国土交通省河川事務所と連携した4種類の流域治水ロゴマーク入りシールの作成
  3. 地元自治体と防災協定を締結し「長生橋構造見学会（信濃川に架かる橋梁）」において信濃川を学ぶ講座の講師を担当
  4. 地元自治体と防災協定を締結し長岡地区河川防災ステーション開所式に向けた流域治水のパネル案を作成
  5. 地域団体と連携した川との向き合い方を考えるイベント「川のツカイカタ」を開催
  6. 「川のツカイカタ」参加者にアンケートによる流域治水の認識度調査を実施

流域治水オフィシャルサポーター 取組実績 1.社員名刺への流域治水ロゴマークの記載



流域治水オフィシャルサポーター 取組実績 2.流域治水ロゴマーク入りシールの作成



流域治水オフィシャルサポーター 取組実績 3.「長生橋構造見学会」にて講師を担当



流域治水オフィシャルサポーター 取組実績 4.流域治水パネル案の作成

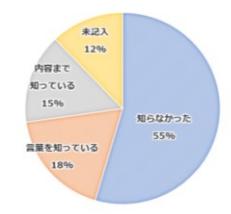


流域治水オフィシャルサポーター 取組実績 5.イベント「川のツカイカタ」の開催



流域治水オフィシャルサポーター 取組実績 6.流域治水の認識度調査を実施

Q「流域治水」という言葉を知っていますか？ (n=33)



認定番号： 2      サポーター名：株式会社 アラソフトウェア

取組  
実績

- ・北見市水防協力団体認定書の授与(3月29日)。  
認定書授与のご報告は弊社HPの下記URLに掲載してあります。  
<https://www.arasoftware.com/web/news/news26.php>
- ・令和6年度 常呂川・網走川連合総合水防演習への参加(6月1日)  
(弊社は演習中協カスタッフとして避難所開設訓練を行いました。)  
参加報告の記事は弊社HPの下記URLに掲載してあります。  
<https://www.arasoftware.com/web/news/news29.php>
- ・流域治水オフィシャルサポーター交流会への参加 (11月22日)
- ・X(旧Twitter)やHPで、カメラによる流速・流量・水位計測の取組(アプリ開発)、  
及び流域治水の趣旨・基礎知識向上を目的とした内容の投稿

認定番号：3      サポーター名：株式会社 ニュージェック

## 取組実績

### ①防災教育出前講座での「流域治水」の説明

- ・近畿圏の小中学校とイベントにおいて防災教育出前講座（無償）を行い、その中で「流域治水」の考え方やその重要性についても説明しました。
- ・報告対象期間内の実施回数は小中学校6回、イベント3回で、参加者はのべ446名（受講生徒169名とその保護者、イベントに参加頂いた一般の方々（アンケート回答人数））でした。
- ・水が流れるジオラマ模型を用いた水害の再現・解説を行う際に、自作のフリップを使って流域治水について説明しました。その際、子どもたちが理解しやすいように、「流域治水とは国、県、市、会社、住民などみんなで力を合わせて大雨に立ち向かうこと」と平易な言葉を用いました。
- ・取り組み後は、理解度を問うアンケートの実施と、弊社ホームページの特設ページへの取り組み結果や写真の掲載を実施しました。



水が流れるジオラマ模型を用いた都市型水害の再現・解説



河川氾濫体験VRアプリを用いた水害時の避難の疑似体験



ハザードマップの読み取り方の説明と浸水深・危険箇所の確認



防災クイズ



流域治水の解説

認定番号： 3      サポーター名：株式会社 ニュージェック

取組  
実績

- ②弊社ホームページに「流域治水の推進」のURLの貼り付け
- ・弊社ホームページの防災教育出前講座特設ページに国土交通省ホームページ「流域治水の推進」のURLを貼り付けています。

※取組実績①②の詳細は、弊社ホームページの特設ページよりご確認ください。

(<https://www.newjec.co.jp/n-expo/>)

- ③名刺への「流域治水」ロゴマークの使用

- ・流域治水に関連する業務を行う社員は名刺にロゴマークを載せています。

認定番号： 4      サポーター名：株式会社 ヤマウ

## 取組実績

### ①令和6年7月30日

国土交通省「流域治水の取り組み」の一環として、河川氾濫の防止における「低炭素型河川護岸ブロックCNEcon」の現場採用Newsをメルマガ登録者（6,000人）に配信し流域治水の理解促進を図った。

### ②令和6年8月23日

「Newsweek」掲載時に流域治水オフィシャルサポーターの取り組みの一環として、防災・減災における異常気象に対して「低炭素型河川護岸ブロックCNEcon」の製品開発を掲載し流域治水の理解促進を図った。

### ③令和6年10月22日

開催場所：幕張メッセ

主催：全国土地改良事業団体連合会

概要：弊社ブース内に流域治水の趣旨や取組を紹介するコーナーを設置し、雨水貯留機能の拡大として「ため池製品」のパネル・カタログにて説明し来場者へ地域の流域治水の理解促進を図った。

### ④令和6年11月16日～17日

開催場所：鹿児島県上野原縄文の森 祭りの広場

主催：鹿児島県

概要：弊社ブース内に流域治水の趣旨や取組を紹介するコーナーを設置し、河川氾濫を防ぐ対応策としての「低炭素型河川ブロックCNEcon」のパネル・カタログにて説明し来場者へ地域の流域治水の理解促進を図った。



鹿児島県でのパネル展示

認定番号：5 サポーター名：一般社団法人 日本損害保険協会

取組  
実績

## 【具体的な取組】

・「ぐんま大雨時デジタル避難訓練」に協賛（6/7）

[https://www.sonpo.or.jp/news/branch/kanto/2024/g34l0i0000002scn-att/240607\\_01.pdf](https://www.sonpo.or.jp/news/branch/kanto/2024/g34l0i0000002scn-att/240607_01.pdf)

・2014年8月広島土砂災害から10年の節目に、広島市で「家族で防災を考える」をテーマにしたイベントを開催（7/27）

[https://www.sonpo.or.jp/news/branch/chugoku/2024/g34l0i0000003dzv-att/240815\\_01.pdf](https://www.sonpo.or.jp/news/branch/chugoku/2024/g34l0i0000003dzv-att/240815_01.pdf)

・「クリーン太田川」河川一斉清掃に参加（7/28）

[https://www.sonpo.or.jp/news/branch/chugoku/2024/g34l0i0000003e13-att/240815\\_02.pdf](https://www.sonpo.or.jp/news/branch/chugoku/2024/g34l0i0000003e13-att/240815_02.pdf)

・「かながわけんみんな防災カード」の作成及び配布に協賛（8/2）

[https://www.sonpo.or.jp/news/branch/kanto/2024/g34l0i0000003atd-att/240802\\_01.pdf](https://www.sonpo.or.jp/news/branch/kanto/2024/g34l0i0000003atd-att/240802_01.pdf)

・埼玉県「流域治水シンポジウム 2024」に出展（8/26）

[https://www.sonpo.or.jp/news/branch/kanto/2024/g34l0i0000003v90-att/240910\\_01.pdf](https://www.sonpo.or.jp/news/branch/kanto/2024/g34l0i0000003v90-att/240910_01.pdf)

認定番号：5 サポーター名：一般社団法人 日本損害保険協会

取組  
実績

・群馬損保会長がラジオで自然災害への備えを呼び掛け（9月）

[https://www.sonpo.or.jp/news/branch/kanto/2024/g34l0i0000004mxb-att/241017\\_01.pdf](https://www.sonpo.or.jp/news/branch/kanto/2024/g34l0i0000004mxb-att/241017_01.pdf)

・沖縄県代協主催のビーチクリーン活動に参加（11/2）

[https://www.sonpo.or.jp/news/branch/okinawa/2024/g34l0i0000004tvx-att/241113\\_01.pdf](https://www.sonpo.or.jp/news/branch/okinawa/2024/g34l0i0000004tvx-att/241113_01.pdf)

・青森県総合防災訓練で地震保険・ハザードマップ等を紹介（10/30弘前市）

[https://www.sonpo.or.jp/news/branch/tohoku/2024/g34l0i0000004v1i-att/241114\\_01.pdf](https://www.sonpo.or.jp/news/branch/tohoku/2024/g34l0i0000004v1i-att/241114_01.pdf)

・『第1回いばらきの地震・風水害に「備える」を考える日 inつくば』を茨城県・つくば市・茨城代協等と開催！（11/30）

[https://www.sonpo.or.jp/news/branch/kanto/2024/g34l0i00000053bu-att/241213\\_01.pdf](https://www.sonpo.or.jp/news/branch/kanto/2024/g34l0i00000053bu-att/241213_01.pdf)

・啓発動画「水災への備え、本当に大丈夫ですか？」を公開（12/16）

[https://www.sonpo.or.jp/news/notice/2024/g34l0i00000053ik-att/241216\\_01.pdf](https://www.sonpo.or.jp/news/notice/2024/g34l0i00000053ik-att/241216_01.pdf)

認定番号：5 サポーター名：一般社団法人 日本損害保険協会

取組  
実績

茨城県の地震・風水害に備えるための啓発リーフレット・動画を作成！（12/27）

[https://www.sonpo.or.jp/news/branch/kanto/2024/g34l0i00000059xt-att/241227\\_01.pdf](https://www.sonpo.or.jp/news/branch/kanto/2024/g34l0i00000059xt-att/241227_01.pdf)

国交省・河川情報センターの協力を得てそんぽデジタル・マイ・タイムラインを作成

[https://www.sonpo.or.jp/news/notice/2024/g34l0i0000006ml9-att/250318\\_01.pdf](https://www.sonpo.or.jp/news/notice/2024/g34l0i0000006ml9-att/250318_01.pdf)

ほか、通年の取組みとして

- ・そんぽ防災WEB（防災情報まとめサイト）に「水災害による被害の低減に向けた取組み」を掲載・周知
- ・各支部での行政に対する要望・提言（コメントを通じた意見表明やぼうさい探検隊マップコンクール参加団体が参加児童の目線で防災・減災の提言を実施したものを含む）
- ・全国の主要国立大学単位講座で「自然災害への備え」を講義 など

認定番号： 6      サポーター名：西江建設株式会社

取組  
実績

## ①【当社 HP による啓発】

流域治水オフィシャルサポーターとしての活動内容や、流域のあらゆる関係者で水災害対策を推進する流域治水の考え方などを当社ホームページに掲載。国土交通省流域治水の推進ページへリンクを設定。

## ②【社屋周辺でのぼり旗による啓発】

水防月間、河川愛護月間や土砂災害防止月間などの期間に当社社屋玄関や施工現場事務所に「みんなで取り組もう流域治水」ののぼり旗を掲揚

## ④【名刺交換で啓発、及び社員への教育】

当社の名刺に「流域治水オフィシャルサポーター」、流域治水ロゴマークを掲載し、地域各種活動で流域治水を啓発。社員には「流域治水」について説明会を開催し、概念や市民をはじめ各主体が取り組める内容を周知し、名刺に掲載している趣旨が説明できるよう教育

## ⑤【災害時の一時避難場所の提供】

当社 BCP 対応訓練において一時避難場所を開設。帯広市役所職員にも参加してもらい当社の取組をアピール

## ⑦【インターンシップ等の機会をとらえた若者への啓蒙】

インターンシップの学生(北海道科学大学9名、札幌工科専門学校1名)及び企業説明会等で流域治水サポーターの取組を啓蒙

3か月ごとに発行している西江通信の17号、18号で社内・外に発信  
ホームページの専用ページ開設の情報をInstagramで紹介

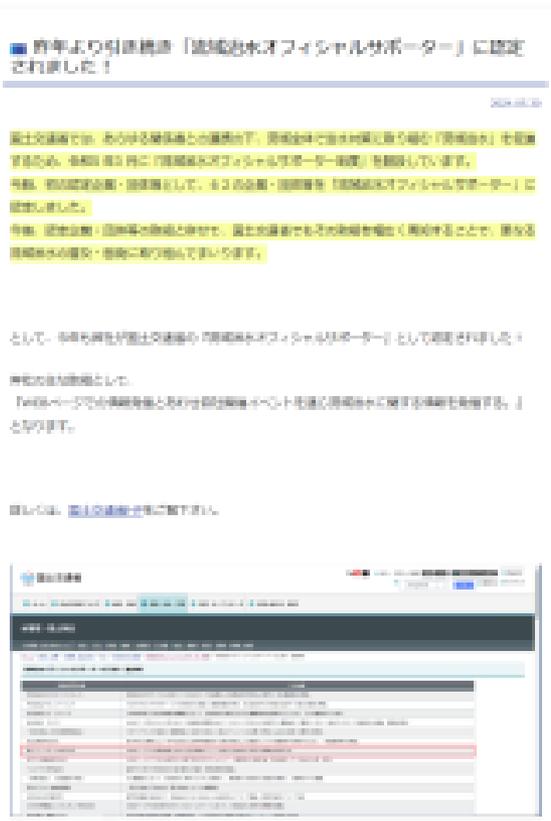
◇Webページ：[流域治水オフィシャルサポーター - 西江建設株式会社](#)

◇インスタページ：[西江建設 株式会社\(@nishie\\_kensetsu\)・Instagram写真と動画](#)

認定番号： 7      サポーター名： 富士コントロール株式会社

**取組実績** 年間を通し、当社HPにおいて、国土交通省の流域専用WEBページのリンク及びオフィシャルサポーターを紹介し、流域治水の趣旨、取り組みの周知をおこなった。

8月に実施した第23回地域ふれあい感謝祭で流域治水の取組について周知をおこなった  
<https://www.fco.co.jp/info/important/>



認定番号： 8

サポーター名：新太平洋建設株式会社

## 取組実績

- ・WEBページのリンクをQRコードにし、流域治水のロゴマークと共に名刺に記載することで、流域治水の周知・啓発を図る。
- ・業界新聞社から河川区域内の工事で洪水対応タイムライン（事前防災行動計画）を用いた重機の避難訓練の取材を受けた。
- ・自社WEBページに河川区域内の工事で洪水対応タイムライン（事前防災行動計画）を実運用している旨を公表・周知している。 [Microsoft PowerPoint - 250205](#)



新太平洋建設株式会社



※当社は北海道SDGs推進ネットワークに会員登録されています。  
<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/sks/SDGs/102515.html>

(⑨イノベーション)



## 強靱（レジリエント）なインフラ構築とイノベーション（新たな技術革新）の推進を図る



新太平洋建設株式会社

- ・河川工事により、流域治水での安全・安心の向上に貢献します。また、激甚化・頻発化する災害に対するソフト対策として、河川区域内の工事で洪水対応タイムライン（事前防災行動計画）等を実運用しています。
- ・当社は令和5年と6年度に国土交通省の流域治水サポーターに認定されました。  
<https://www.mlit.go.jp/river/kasen/suisin/supporter.html>

・令和2年度の河道掘削工事と橋梁新設工事で洪水対応タイムラインを、令和3年度の斜面对策工事で暴風雪対応タイムラインを、令和4年度の橋梁補修工事と令和6年度の豊平川河道整正工事で洪水対応タイムラインを実運用しました。



令和2年7月矢白場河道掘削（石狩川）



令和3年1月北24条大橋架設（札幌市）

- ・道路工事により、北海道特有な広域分散型の地域構造を支える道路ネットワークの形成に貢献しています。
- ・ICT（情報通信技術）の工事施工で建設現場の生産性向上と働き方改革を推進します。 7

認定番号：9      サポーター名：ベルテクス株式会社

## 取組実績 ①2024.7/30-8/2 下水道展'24東京 @東京ビックサイト

＜主な展示内容＞

- ▶ 雨水を一旦貯めるための「雨水貯留槽」
- ▶ 雨水を流すための「雨水幹線ボックス、マンホール、高落差工」
- ▶ 避難したときの「災害用トイレ」

※浸水対策事業者に加え、一般市民の方にも分かりやすいデモ模型を用いて、「流域治水」の必要性を発信しました。



## ②2024.8.3-4 「SDGsフェス」 @さいたま市/大宮マルイ

・流域治水について、紙芝居やシール遊びを用いて、子どもにもわかりやすいお話で楽しみながら学ぶ取り組みを行いました。



認定番号：10      サポーター名：一般財団法人北海道河川財団

取組  
実績

・5月～3月に、Webページにおいて、流域治水Webページのリンクを紹介し、道民に対して流域治水の主旨、取り組みを周知した。

・9月及び12月、RIC講演会において、流域治水に関するパネルを展示し、参加者に対して流域治水の主旨を周知した。

(Webリンク先)

[講演会・イベント | 一般財団法人 北海道河川財団](#)

認定番号： 1 1      サポーター名： 荒川ビジョン推進協議会

## 取組 実績

① 荒川源流域住民等への荒川流域治水の情報提供・共有化を目的とした

### 【研修会の開催】

講演名：「地球温暖化」について

昨年夏の天候・気候変動・地球温暖化の話・熱中症への備え

実施日：令和6年7月8日（月）

場 所：秩父宮記念市民会館けやきフォーラム

講 師：気象庁 熊谷地方気象台 山城幸浩 調査官

参加者：秩父市副市長、皆野町長、

長瀬町副町長、小鹿野町副町長、横瀬町副町長、  
埼玉県議会議員、秩父地域市町議員、

荒川上流河川事務所、荒川下流河川事務所、

二瀬ダム管理所長、埼玉県秩父地域各事務所、水資源機構、秩父地域民間企業等101名



② 4ダムツアー-秩父地域の4ダムの視察の実施

【流域を守る重要な施設であることを認識してもらうことを目的とした見学会の実施】

実施内容：秩父地域4ダムの視察を実施

（浦山ダム・二瀬ダム・滝沢ダム・合角ダム）

参加者募集を埼玉県広報「彩の国だより」

と秩父市報「ちちぶ」に掲載

実施日：令和6年7月27日（土）

参加者：12組32名（子供15名・保護者17名）

協 力：埼玉県秩父地域振興センター職員



認定番号： 1 2      サポーター名：株式会社日立製作所

## 取組 実績

- 2024年5月26日 国土交通省 岩木川総合水防演習 参加
  - ・水防演習にて浸水シミュレーションを活用した水害対策について、地域の方々と意見交換を実施した。
- 2024年6月5日,6日 EE東北'24 出展
  - ・展示会にて浸水シミュレータ,避難・緊急活動支援システムを紹介した。
- 2024年7月 読売テレビ報道番組「ウェークアップ」取材対応
  - ・当社の「流域治水 浸水被害予測システム」が、最先端の技術としてテレビで放映され、洪水予測の技術、流域治水の重要性を紹介した。
- 2024年11月22日 流域治水オフィシャルサポーター交流会 参加
  - ・流域治水関係者と相互に取り組みを紹介した。
- 2025年2月18日 第9回気象ビジネスフォーラム 参加
  - ・当社の浸水被害予測システムが気象庁より洪水予報業務の許可を取得したことを発表した。
- 各自治体に対し、流域治水取り組み内容と紹介

認定番号： 13      サポーター名： 三井共同建設コンサルタント株式会社

- 取組実績**
- ①テクノロジーレポートにて流域治水の趣旨、取組の周知に関する情報を掲載。
  - ②同情報は当社HPで公開。PDFでダウンロード可能。今後も随時更新予定（その8まで掲載）  
(<https://www.mccnet.co.jp/technical>)
  - ③なお、その8では令和6年11月に参加の「流域治水オフィシャルサポーター交流会」に関する情報を掲載。
  - ④社内勉強会の実施（令和6年度新入社員向け、全国の営業部署向け）
  - ⑤公益社団法人 雨水貯留浸透技術協会で開催の「あまみず交流会」で情報提供（口頭発表）
  - ⑥自治体職員向け勉強会(特定都市河川)の実施（〇〇県、□□市）

## テクノロジーレポート



## 〇〇県への勉強会資料

2024/12/16

### 特定都市河川に関する勉強会

第1編 特定都市河川浸水被害対策法について  
第2編 特定都市河川の指定に向けた具体的な検討  
第3編 ケーススタディ  
参考資料

MCC 三井共同建設コンサルタント株式会社

認定番号：14

サポーター名：宮坂建設工業株式会社

## 取組実績

- ① 自社主催「親子防災教室」にて流域治水に関する動画の視聴やパンフレットの配布を行い、地域の皆さまに周知した。
- ② 自社主催「地域防災訓練」にて流域治水に関するパネルの展示やパンフレットの配布を行い、地域の皆さまに周知した。
- ③ 自社主催「流域治水に関する講演会」を開催し、協力会社や関連企業に対して流域治水の重要性などを周知した。
- ④ 帯広市より水防協力団体として認定され、自社主催のイベントにおいて協力を行った。
- ⑤ 自社主催のイベントにおいて内閣府 イノベーション会議の戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 「スマート防災ネットワークの構築」サブ課題B「リスク情報による防災行動の促進」への協力を行い、浸水シミュレーションなどの取り組みにより地域の皆さまに流域治水に関する意識高揚を図った。



親子防災教室



地域防災訓練



流域治水に関する講演会



帯広市水防協力団体認定および協力



内閣府 イノベーション会議の戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)「スマート防災ネットワークの構築」サブ課題B「リスク情報による防災行動の促進」への協力



認定番号：15 サポーター名：一般社団法人環境文化研究所

取組  
実績

下記の体験活動のなかで洪水や流域治水について広報を行い、住民へ理解と共感を深めた。

- 講演「水辺があるまちづくり～魅力への気づき～」,  
第102回公益社団法人日本水道協会中部地方支部総会, 2024.6.24,  
(<https://e-labs.jp/archives/3869>)
- 体験「リバーパラダイス2024」, 日野川（越前市堀川町）, 2024.8.3,  
(<https://e-labs.jp/archives/3804>)
- 体験「防災Eポートレースシカノバカップ2024」,  
九頭竜川（永平寺町東古市）, 2024.9.16,  
(<https://e-labs.jp/archives/3825>)
- 講演「「万が一」から「万の備え」へ」,  
敦賀市防災訓練における市民向け防災講座（自助・共助等）, 2024.11.10,  
(<https://e-labs.jp/archives/3863>)
- 体験「流域治水アイデアハック」, 会場：越乃バレー（ふくまちブロック6階）, 2025.1.29,  
(<https://e-labs.jp/archives/3901>)  
(Youtube : <https://www.youtube.com/watch?v=S3YTVLq6ZeQ&t=1s>)

認定番号：16

サポーター名：株式会社田中地質コンサルタント

取組  
実績

下記の講演会や特別授業の中で流域治水の紹介。

主に、洪水発生後に自分達の住まいでは地形的にいつまでにどこに避難すべきかを理解（主に浸水ナビや地形区分図を利用）することと、自らが仲間と共に被災者への共助ができることについて理解を深めた。

- ハザードマップの見方と活用について（越前市版）：越前市赤十字奉仕団研修会：2024.05.23
- 学校では学べない身近な地学で知っ得！自然災害への備え：福井県大野高等学校2024.09.26  
(<https://geology.co.jp/archives/2293>)
- 学校では学べない身近な地学で知っ得！自然災害の仕事：福井県藤島高等学校2024.11.28  
(<https://geology.co.jp/archives/2307>)
- 今立地区の地質を知って防災力をアップしよう！：越前市赤十字奉仕団今立分団：2024.11.29  
(<https://geology.co.jp/archives/2311>)
- 国高地区の地質を知って防災力をアップしよう！：越前市赤十字奉仕団国高分団：2024.11.29

認定番号： 17      サポーター名： アジアエンジニアリング株式会社

## 取組実績

取組 1： 雨水流域対策（内外水河川下水道の連携）をテーマに研修を実施

①令和6年10月23日（水） 福岡県八女県土整備事務所

[雨水流域対策の出前講習 八女県土](#)

②令和6年11月29日（金） 福岡県那珂県土整備事務所

[雨水流域対策の出前講習 那珂県土](#)

取組 2： 流域治水の広報活動

①当社ホームページ（<https://www.asia-e.co.jp/>）において流域治水専用Webページのリンク貼付、閲覧者に対して流域治水の趣旨、取組を周知

[【更新】流域治水オフィシャルサポーター制度](#)

②流域治水オフィシャルサポーターのロゴを名刺に表示

取組 3： 九州地方整備局との災害協定の締結による災害時の対応

①令和6年3月22日（金） 遠賀川河川事務所との災害協定締結

②令和6年4月1日（月） 筑後川河川事務所との災害協定締結

取組 4： 福岡県との間接的な災害協定の締結による災害時の対応

①（一社）福岡県測量設計コンサルタンツ協会への入会を継続し、協会を介して県の水災害時の応急対策業務に協力

認定番号：18 サポーター名：株式会社三弘

## 取組実績

### 1. 水防協力団体に認定

木曽川右岸地帯水防事務組合の水防協力団体に指定いただけるよう申請。認定いただく。令和6年12月9日、岐阜県笠松町役場において、木曽川上流河川事務所長殿立会いの下、認定式に出席。

令和7年3月25日、支援物資として土のう袋3,200枚をお渡し。

・中部地方整備局・笠松町 プレスリリース

[https://www.cbr.mlit.go.jp/kisojyo/cms/press/pdf/kisya05\\_061202.pdf](https://www.cbr.mlit.go.jp/kisojyo/cms/press/pdf/kisya05_061202.pdf)



### 水防協力団体認定式

(写真左から: 木曽川上流河川事務所長、笠松町副町長、笠松町長(組合管理者)、弊社代表取締役、弊社担当者)



水防協力団体認定証

### 2. 地域の防災イベントへの協賛・出展

- ・弊社本社の所在地である名古屋市昭和区のイベント「防災・減災秋まつり」へ協賛・出展の実施。
- ・昭和区商店街連合会と協力して地域防災の啓発活動と地域の子供にもたいして学びの機会を提供。



イベントポスター



地域の子供への  
学習機会



出展内容  
(転倒ます型雨量計の  
仕組みと雨量の例)

認定番号：19

サポーター名：一般社団法人中部地域づくり協会

## 取組実績

### ① 防災講座の実施

年度を通して、愛知・岐阜県内の小・中学校、高校、大学、特別支援学校で児童・生徒・学生に対して、大雨から大切な命を守るため、VRによる浸水疑似体験・浸水疑似体験映像の視聴や、過去の災害などの学習、マイ・タイムラインの作成などを通して、事前の備えや早期避難などについて学ぶ防災講座を実施した。

防災講座の実施校数は、令和6年度実績が83校(小学校51校・中学校15校・高校10校・大学1校・特別支援学校6校)、受講児童・生徒・学生数は、約5,700人であった。また、9月以降、伊勢湾台風の記憶を風化させず伝承するため、AI語り部との対話を通し伊勢湾台風を学習できるシステムを制作し、防災講座で活用した。

#### 【活動報告】

<https://ckknet-kenkyujyo.jp/activity-report/disaster-prevention-lecture/>

#### 【講座申込】

VRによる浸水疑似体験

<https://ckknet-kenkyujyo.jp/activities/dsaster-prevention-lecture/>

### 防災講座の様子



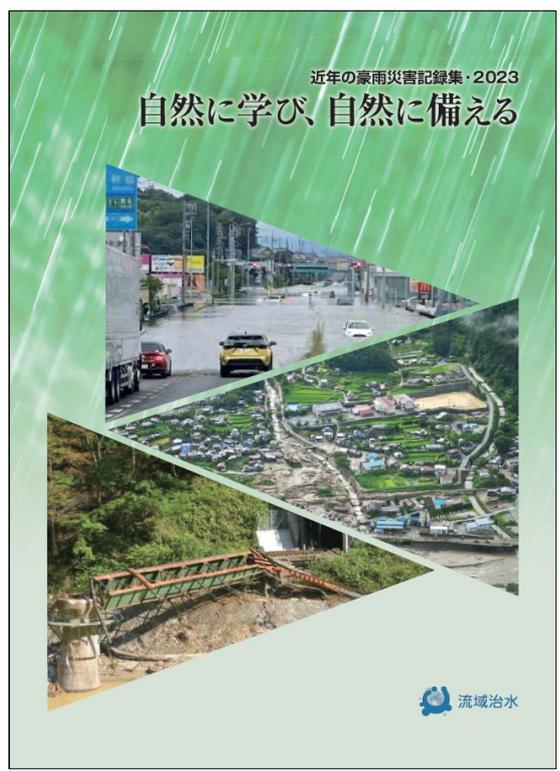
認定番号：19 サポーター名：一般社団法人中部地域づくり協会

取組実績

② 防災啓発冊子の配付

近年の豪雨災害を学ぶ防災啓発冊子「自然に学び、自然に備える」を5月に3,500部発行した。その冊子に流域治水を紹介するページを設け、三重四国連合総合水防演習を始めとする防災イベントや中部管内の国・自治体などの行政機関、図書館、高校、大学などに配布した。

(<https://ckknet-kenkyujyo.jp/activities/heavy-rain-disaster-record-collection/>)



CONTENTS 目次

令和5年豪雨半島地震	北陸3	03
令和東南海地震	東海7	08
濃尾地震	岐阜・美濃	11
野付川台風	静岡	13
伊勢湾台風	愛知・岐阜・三重	15
三六災害	長野	17
昭和47年7月豪雨	徳島	19
七夕豪雨・水害	三重	21
9.12濃尾災害(安八豪雨)	岐阜・愛知	23
9.29濃尾災害	岐阜	25
東海(度尾)豪雨	岐阜	27
秋前線・台風21号	三重	29
平成16年台風23号	岐阜	30
平成16年7月豪雨	岐阜	33
平成20年台風23号	岐阜	34
西濃豪雨	三重	35
台風10号	岐阜	36
平成22年7.15梅雨前線豪雨	岐阜	37
平成22年台風9号	岐阜	38
台風12号	岐阜	39
台風15号	岐阜	41
台風18号・梅雨前線	岐阜	43
台風18号	岐阜	46
台風16号	三重	47
台風21号	三重	48
平成30年7月豪雨	徳島	49
令和元年日本台風(台風19号)	徳島	51
令和2年7月豪雨	岐阜	53
令和3年7月11日からの大雨	岐阜	55
令和3年8月11日からの大雨	岐阜	56
台風15号	岐阜	57
梅雨前線大雨と台風10号による大雨	岐阜	59
令和5年全館の主な水害		61
地震・着火等の大災害		63
災害・Sneling		69
平成以降に起きた大規模災害		81
たいせつな命を守るために		85
地域づくり技術研究所の取り組み		88
参考文献一覧		89

たいせつな命を守るために

流域治水プロジェクト

◆令和元年日本台風をはじめ、平成30年7月豪雨や平成29年九州北九州豪雨等、近年激甚な水害が頻発して来り、さらに、今後、気候変動による海面上昇の増大や水害の激甚化・頻発化が予測されています。

◆このような水災害リスクの増大に備えるためには、これまでの河川管理者の役割だけでなく、流域に関わる関係者が、主体的に治水に取り組む地域社会を構築する必要があります。

◆河川・下水道管理者等による治水に加え、地元の事業者（商・産・業界・市町村・企業・住民等）により流域全体で行う治水「流域治水」へ参加するため、各一輪水高において「流域治水推進員」を設立し、流域全体で準備すべき対策の全体像を「流域治水プロジェクト」として策定し、ハード・ソフト両面の事前防災対策が促進して進められています。

流域治水は by ALL

「流域治水」とは、堤防整備、ダム建設・再生などの対策をより一層推進させるとともに、さらに集水域（雨水が河川に流入するエリア）から流域（河川等の周辺により雨水が流出するエリア）にわたる流域に関わる全員で水害対策を行う考えです。

対策の3つの柱

- ① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
- ② 被害対象を減少させるための対策
- ③ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

流域治水プロジェクト2.0

◆気候変動の影響により、2040年頃には降雨量が約1.1倍、氾濫が1.2倍、洪水発生頻度が2倍に増加すると見込まれることを踏まえ、流域治水の取組を更に加速化・深化させるため、全国109の一輪水高で、気候変動を踏まえた河川及び流域での対策の取組を反映した流域治水プロジェクトの2.0に更新されています。

国土交通省

認定番号：19 サポーター名：一般社団法人中部地域づくり協会

取組実績

③ 防災イベント等における啓発

年度を通して、中部管内の防災イベント等に参加し、大雨における早期避難の大切さを伝えるため、V Rによる浸水疑似体験・伊勢湾台風AI語り部との対話体験等を実施した。  
令和6年度における防災イベント等の参加実績は37回、V Rによる浸水疑似体験者数は約2,800名であった。

【活動報告】 (<https://ckknet-kenkyujyo.jp/activity-report/disaster-drills-etc/>)

【浸水体感V R】 (<https://ckknet-kenkyujyo.jp/activities/flooding-vr/>)

【伊勢湾台風AI語り部】 (<https://ckknet-kenkyujyo.jp/activities/isewan-kataribe/>)

防災イベント等の様子

国土交通省との連携



令和6年度 三重四川連合総合水防演習

地域との連携



かわらんべ 夏休みスペシャルDay



せき市民防災フェア2024



伊勢湾台風65年市民防災の集い

④ 一時避難所の設置

9事業所（沼津市・浜松市・豊橋市・名古屋市・桑名市・津市・岐阜市・多治見市・高山市）において、地域の自治会と協定を締結し、洪水時等の一時避難所として位置づけている。

認定番号：20 サポーター名：株式会社 藤井組

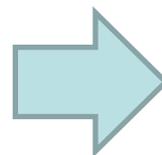
取組  
実績

- ①令和6年11月7日(木)～8日(金) 建設技術展2024近畿において、当社出展ブースの一角に流域治水対策コーナーを設置し、流域治水の重要性等を来場者へ説明しました。
- ②社内に水防協力団体として啓発ポスターを掲示。
- ③自社HPに特設ページを設け、流域治水対策の必要性、重要性を発信しております。  
(<https://www.o-fujiigumi.co.jp/company/flood-control/>)

認定番号：21 サポーター名：旭建設株式会社

取組  
実績

宮崎県日向土木事務所発注 耳川 小八重4地区 河川災害復旧工事  
(工期：令和5年 6月27日～令和7年 3月25日)  
多自然川づくり／災害復旧に伴う護岸工事において、根固めブロックの上面に河川の自然石の配置を行った。



認定番号：22

サポーター名：株式会社建設技術研究所

取組  
実績**●リアルタイムの水害リスク情報の配信**

ゲリラ豪雨や集中豪雨などを予測して、水災害の発生リスクをリアルタイムに発信。内水氾濫はリアルタイムと60分先までの浸水予測を解析した情報を、全国地図250mメッシュで5分間隔に提供している。このサービスは企業だけでなく、一般ユーザーも無料で利用可能です。

【参照】<https://www.riskma.net/ja/top>

**●「流域治水DXシステム」の開発**

流域治水の施策立案、効果検証、施策の進捗管理を共有することを目的に開発したシステム。今後は開発したシステムの機能を拡充し、さまざまな流域治水施策の地先から大河川までの効果を同一システム内で定量的に評価できるシステムを開発・実証する予定です。今後、現場での利活用に向けて、河川管理者、自治体と協議をしていきます。

【参照】[https://www.ctie.co.jp/news/tech/2024/20240228\\_1220.html](https://www.ctie.co.jp/news/tech/2024/20240228_1220.html)

認定番号：23

サポーター名：一般社団法人パブリックサービス

## 取組実績

当法人が流域治水オフィシャルサポーターとして実施した取組みを以下に報告致します。

①令和5年7月より当法人Webサイトにおいて流域治水専用のページを立ち上げ、流域治水の趣旨、取組みを紹介。また、中部地方整備局管内の地整・事務所HPにリンクを設定し各流域治水協議会の流域治水プロジェクト2.0の活動状況を閲覧できるようにしました。

(<https://www.giaps.or.jp/hp-1/activities/index.html>)

②流域治水に関するチラシやクリアファイル、手拭いといった広報資料を作成し、イベント等において配布による周知活動を実施しました。

### 【周知活動イベント】

- ・「建設技術フェアin中部」 令和6年11月28日～29日
- ・「天竜川総合学習館かわらんべ」 令和6年7月27日

③流域治水の要であるダムについて、広く一般の方に理解して頂くよう、御朱印（ダム印）を作成し、中部地方整備局管内の直轄管理ダム、水資源機構中部支社の管理する治水ダム等の16ダムについてダム印を配布しています。また、「ダム印巡りin中部」（令和6年7月20日～令和7年3月31日）を企画し、道の駅でチラシやクリアファイル、シール、手拭いといった広報資料を、条件を満たした方を対象に配布しました。



認定番号：23

サポーター名：一般社団法人パブリックサービス

## 取組実績



建設技術フェアin中部



ダム印巡り i n 中部



ダム印

認定番号：24 サポーター名：日本工営株式会社

**取組実績** 福島県いわき市と当社は、流域治水の推進に向けて相互に連携・協働することを目的に、「流域治水の推進に関する連携協定」を令和4年4月28日に締結しました（図1参照）。流域治水に関する情報共有や、当社が有する先端技術を活用した防災プラットフォーム（防すけ@）の実証を連携・協働しながら行うことで、流域治水を推進し、いわき市内（夏井川流域）の水害の防止・軽減を目指した取り組みを行いました。また、国土交通省のワンコイン浸水センサ実証実験にいわき市と連名で参画し、浸水状況を把握する仕組み作りを行いました。

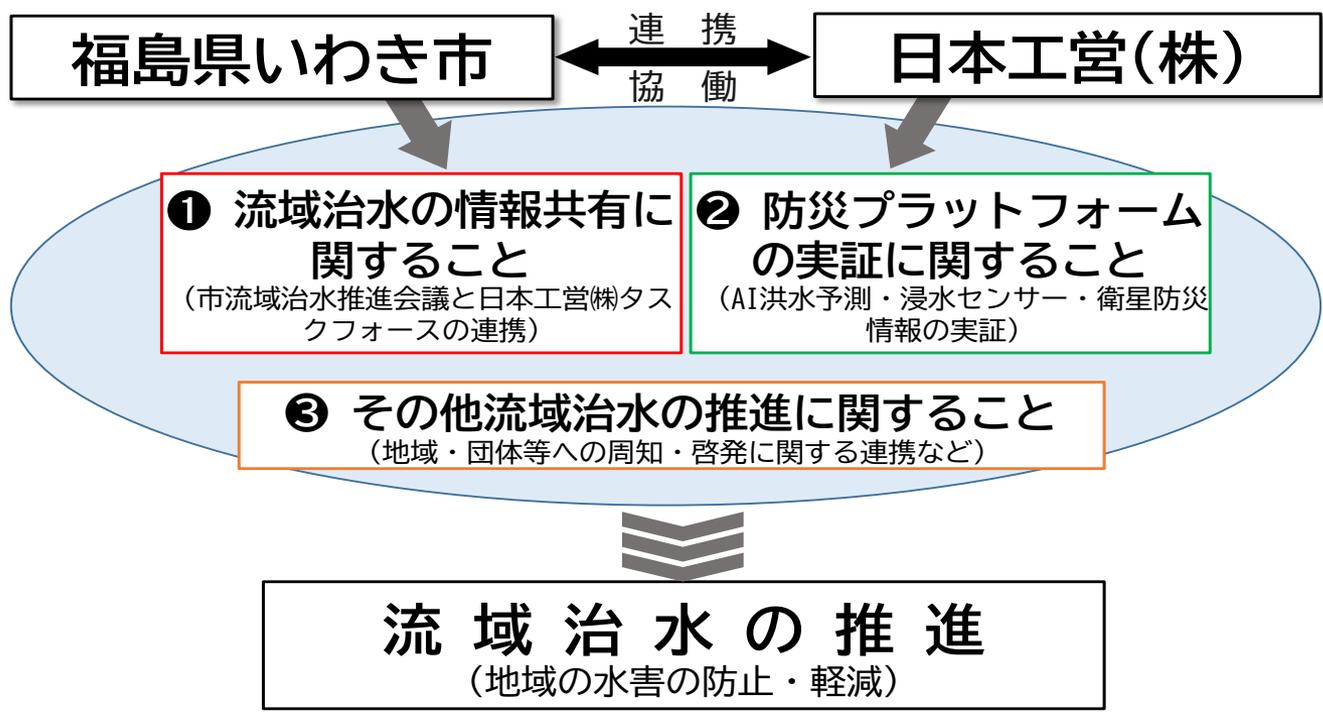


図1 連携協定図

認定番号：25

サポーター名：株式会社水倉組

取組  
実績

令和6年9月に青森県弘前市弘前大学で行われた、農業農村工学会大会講演会全国大会において、ポスターセッションへ参加し、掲示、発表を行い流域治水の説明を行いました。

また、今年度も『キレイ・ミライ・プロジェクト』をNPO法人Lily&Marry'S様、協賛企業各社様及びボランティアの皆さんとで河川、海岸の清掃活動を行こない、活動箇所の1つ『一級河川阿賀野川水系早出川』（新潟県五泉市）においてリーフレットを配布させていただきました。

認定番号：27

サポーター名：大塚ウエルネスベンディング株式会社

取組  
実績

- ・令和4年～：国土交通省ワンコイン実証に参加  
(中央大学・河川情報センターとの合同チーム)
- ・令和6年2月7日兵庫県養父市やぶ市民交流広場及び八鹿駅・コミセンやぶにて水位計取付自販機を設置。国土交通省へのデータ連携を開始。自販機に実証告知パネルと国交省マークを入れ、周知活動を開始。
- ・令和7年1月23日高知県日高村東部児童館前及び日高村水辺の環境トイレ横にて水位計取付自販機を設置。国土交通省へのデータ連携を開始。自販機に実証告知パネルと国交省マークを入れ、周知活動を開始。
- ・令和7年度も実証チームとして引き続き参加

認定番号：28

サポーター名：日本ヒューム株式会社

取組  
実績

①浅野工学専門学校で流域治水について、下記日程にて授業を行いました。

## 【実施日程】

10月 4日, 11日, 18日

11月 1日, 8日, 15日, 22日, 29日

12月 6日, 13日, 20日

1月10日, 17日, 24日, 31日

2月 7日



## 【実施内容】

流域治水に必要となる排水施設の水路、管渠、雨水貯留槽、などに使用されるコンクリート二次

製品について、その形状、構造、仕様などについてです。合わせて、生活のライフラインとなる下水道

管路や、道路用製品などについても授業を行っております。

②朝日新聞での流域治水 取材協力

朝日新聞の災害大国の特集で、内水氾濫だけでなく、流域治水の観点で、幅広い対策を行っている事を説明し、記事にいただいた。

認定番号：29

サポーター名：公益財団法人リバーフロント研究所

## 取組実績

全国の流域づくりやグリーンインフラの担い手を支援する相談窓口の運営、機関誌発行、研修会開催等を通じて、流域治水の人材育成に取り組んだ。

### ①相談窓口の運営（リバフロサポートセンター）

行政職員・市民団体・技術者・研究者など全国の流域づくりの担い手を支援する相談窓口「リバフロサポートセンター」を運営し計51件の支援を行った。

（内訳：多自然川づくり・8、かわまちづくり・19、河川環境管理シート・10、小さな自然再生・9、その他・5）

### ②機関紙等の発行

令和6年8月に「水辺とまちづくり～賑わい・文化・景観～」を特集テーマにした機関「RIVERFRONT」、及び「はじめての魚の居場所づくり vol.2」を発行し、全国に普及した。

<https://www.rfc.or.jp/book1.html>



リバフロサポートセンターによる国内外支援活動  
（左：台湾大学視察支援、右：かわまちづくり講演）

RIVERFRONT

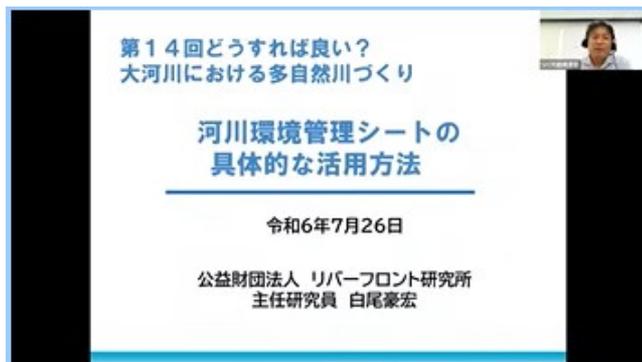
「はじめての魚の居場所づくり vol.2」発刊

認定番号：29 サポーター名：公益財団法人リバーフロント研究所

取組  
実績

### ③流域づくりに資するセミナーの開催

令和6年5月から11月に「大河川における多自然川づくり WEBセミナー」を4回開催し、講演動画はホームページに掲載し全国に普及した。



第14回セミナーの様子

<https://www.rfc.or.jp/daikasen.html>

### ④「小さな自然再生」現地研修会のシリーズ開催

5月から11月に地元の多様な主体が参画する「小さな自然再生」現地研修会を5回開催し、生態系保全のアプローチから流域治水を推進した。



第23回研修会  
(福井県)



第24回研修会  
(新潟県)



第25回研修会  
(滋賀県)



第26回研修会  
(兵庫県)



第27回研修会  
(長野県)

認定番号：30 サポーター名：因幡堰土地改良区

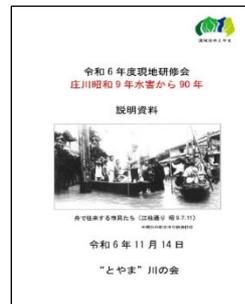
取組実績	<p>《 本年度の田んぼダムの取り組みは、本区管内1,076ヘクタールで実施 》</p> <p>《 田んぼダム推進活動 》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・通年をとおして、田んぼダム取り組みの啓発を図るため、本区ホームページに掲載すると共に田んぼダムプロジェクトと称した下記YouTube等配信の実施。 (因幡堰土地改良区(水土里ネットいなば) URL : <a href="https://www.inabazeki.or.jp/tanbo">https://www.inabazeki.or.jp/tanbo</a>)</li></ul> <p>《 推進活動日と内容 》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・R6.6.7 鶴田川沿岸土地改良区13名来所(田んぼダム視察対応)</li><li>・R6.6.24 大山地域保全会5名来所(田んぼダム視察対応)</li><li>・R6.6.25 南相馬市7名来所(田んぼダム視察対応)</li><li>・R6.7.29~9.12 田んぼダム実証ほ場の田面水位観測 地域流域治水オフィシャルサポーター連携/センシング技術の効果検証 水位センサー無償貸与と設置(協賛/(株)TDE)</li><li>・R6.10.22 全国土地改良大会2名(研修参加)</li><li>・R6.11.1 山形県土地改良大会8名(研修参加)</li><li>・R6.11.3 いなば田んぼの学校41名(田んぼダム推進・啓発活動)</li><li>・R6.11.20 石鳥谷東部土地改良区15名来所(田んぼダム視察対応)</li><li>・R6.11.21 田んぼダムに関する環境負荷軽減の見える化調査業務意見徴収会3名(WEB参加)</li><li>・R6.11.27 農業農村の多面的機能発揮に向けた全国シンポジウム9名(研修参加) 地元関係国会議員への流域治水等に係る取組の報告と要請活動の実施</li><li>・R6.12.18 三郷堰土地改良区9名来所(田んぼダム視察対応)</li><li>・R7.2.19 水防管理団体等打合せ説明会(東北地方整備局主催WEB参加)</li><li>・R7.2.25 本区総代役員等30名、R7年度取組とダム効果の強化に係る研修及び報告会</li></ul>
------	--



認定番号：31 サポーター名：大日本ダイヤコンサルタント株式会社

取組実績

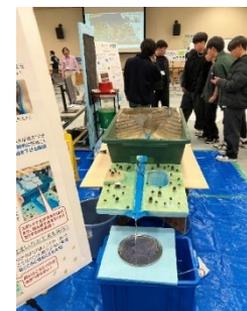
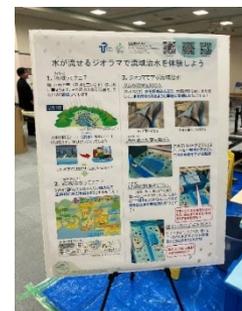
・令和6年11月14日  
 “とやま”川の会の令和6年度現地研修会  
 「庄川昭和9年水害から90年」の資料に  
 ロゴマークを印刷し、流域治水を周知。  
 （当社は事務局として協力）



・令和6年11月18日  
 技術士会富山支部講演会にて流域  
 治水を踏まえた防災技術に関して  
 講演（時代の流れのなかで学んで  
 きた防災の技術）、併せて流域  
 治水及びロゴマークを説明も含めて  
 流域治水を周知。



・令和6年7月27日  
 富山駅構内で開催された、「ともに考え、  
 つながる流域ぷらっとフォーラムシンポジ  
 ウム」に運営補助として参加（業務対応）。  
 また、富山県立大学との今後の共同研究を  
 踏まえ、シンポジウムに参加。流域治水の  
 体験ができる模型を展示。





認定番号：32 サポーター名：株式会社 IHI

- 取組実績**
- ①治水上、重要な水門施設の一般への周知と、社会課題である担い手不足解消への貢献
    - ・当社ウェブページにて、当社が運営している、水門設備に関わる全ての方が学べる体験型研修施設「防災・水門技術研修所」を紹介。  
([https://www.ihico.jp/ihiling/disaster\\_prevention/20230904-01.html](https://www.ihico.jp/ihiling/disaster_prevention/20230904-01.html))
    - ・「市民参加型インフラ写真投稿ウェブサイトの実証実験」を開催。市民がウォーキングをしながら水門の写真を撮影・投稿し、ウェブ投稿する仕組みをイベント形式で実施。水門を始めとするインフラ設備への理解を深め、防災意識の向上、地域コミュニティの醸成を図るとともに、インフラ設備の目視点検への活用可能性を検証。  
([https://www.ihico.jp/iik/products/steel\\_construction/aquarium/](https://www.ihico.jp/iik/products/steel_construction/aquarium/))  
([https://www.city.katori.lg.jp/mayor/teireikishakaiken/R6\\_teireikisyakaiken.files/20241120\\_siryoun.pdf](https://www.city.katori.lg.jp/mayor/teireikishakaiken/R6_teireikisyakaiken.files/20241120_siryoun.pdf)) ※P11~12



「防災・水門技術研修所」の紹介

「市民参加型インフラ写真投稿ウェブサイトの実証実験」の開催

認定番号：32 サポーター名：株式会社 IHI

取組  
実績

②大雨時の水門操作を遠隔化・自動化する運転支援システムの開発を開始

・内閣府が主導する戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）の研究課題「スマート防災ネットワークの構築」に研究開発機関として参画し、現在は現地での操作が主流となっている大雨時の水門操作を遠隔化・自動化するための支援システムの開発を開始した。

[https://www.ihico.jp/all\\_news/2023/infrastructure/1200461\\_3540.html](https://www.ihico.jp/all_news/2023/infrastructure/1200461_3540.html)

認定番号：33 サポーター名：株式会社 技研製作所

取組  
実績

- ・前年度認定を受け、弊社HPに流域治水に関する特設ページを掲載継続中。  
URL：流域治水オフィシャルサポーター – 株式会社 技研製作所 – GIKEN  
<https://www.giken.com/ja/solution/riverbasin/>
- ・R6年3月に高知市から水防協力団体の認定を受けHP作成や、ポスター掲載などの  
広報活動の協力を行っている。  
URL：高知市水防協力団体協力活動 – 株式会社 技研製作所 – GIKEN  
<https://www.giken.com/ja/solution/suibou/>

認定番号：34 サポーター名：一般社団法人東北地域づくり協会

取組  
実績

1) 自治体と連携した流域治水に資する取組と情報発信

公益事業において、流域治水に係る取組を実施する団体等への支援を実施した。(令和6年度支援事業 全29件のうち、流域治水関連事業10件)

※技術開発支援事業 全6テーマのうち流域治水関連2テーマ

■事例1「水辺・絆プロジェクト2024」(国土交通省東北地方整備局)

・本プロジェクトは「水辺から地域を元気に」をテーマとして、被災地域の水辺における様々な活動の支援を目的として、令和4年度よりスタートし、2024年度は選定委員会(R6.3.12)において13件の事業への支援を決定した。

・2024年度の事業報告会及び意見交換会を開催(R6.12.20)。

・当協会は、公益事業として当該事業を支援するほか、選定委員として参画している。

【関連ページURL】

<https://www.thr.mlit.go.jp/wwwroot/bumon/b00037/k00290/river-hp/Kasen/mizube-kizuna/2024/2024.html>

認定番号：34

サポーター名：一般社団法人東北地域づくり協会

取組  
実績

## ■事例2「未来の北上川流域を考える自治体連携会議」

(北上川水系(北上川上流)流域治水協議会)

・北上川における流域治水の推進や地域振興、流木問題など諸課題の解決等に向けて、流域自治体の連携により、様々な魅力を共有し、市町相互の発展に資することや課題解決に向かうことで、北上川流域の持続的な発展に繋げることを目的とする。

①舟運文化と川やまちの風景を体験

②北上川流域で活動する団体の活動紹介及び流域治水を推進するためのパネルディスカッションを実施

流域13首長及び流域関係者約100名が参加 (R6.10.7)

・当協会は、公益事業として当該事業を支援



「未来の北上川流域を考える自治体連携」の様子

## 【関連ページURL】

[https://www.thr.mlit.go.jp/iwate/kawa/katudou\\_torikumi/index.html](https://www.thr.mlit.go.jp/iwate/kawa/katudou_torikumi/index.html)

## 【公益事業関連ページURL】

<https://www.tohokuck.jp/contents/enterprise/public/index.html>

認定番号：34 サポーター名：一般社団法人東北地域づくり協会

取組  
実績

## 2) 防災エキスパート事務局 ■ R6年度活動実績（※R7年1月末時点）

・災害時：延べ 24人

### 【主な活動】

令和6年7月25日からの前線に伴う降雨（7/25～8/8）  
⇒秋田県における河川堤防等の現地調査ほか 延べ9名

令和6年7月25日からの前線に伴う降雨（7/26～8/7）  
⇒山形県における河川堤防等の現地調査及び被災状況調査  
（TEC-FORCEに同行）ほか 延べ15名

・平常時：延べ 636人

### 【主な活動】

徒歩巡視及び徒歩点検、水防演習・水防講師、危機管理演習、  
堤防決壊時の緊急シミュレーション、意見交換会 ほか



被災状況調査の様子  
（秋田）



TEC-FORCEとの  
被災状況調査の様子  
（山形）



水防演習における土のうづくり体験の様子  
（青森県・岩木川左岸）

■（公社）全国防災協会が実施する「令和6年度災害復旧及び災害防止事業功労者表彰」  
（R6.11.11）において下記活動が受賞。

・受賞内容：令和5年7月からの前線に伴う大雨（秋田県）  
令和6年1月能登半島地震広域支援（石川県）

※防災エキスパート関連ページ [URL:https://www.tohokuck.jp/contents/bousaiex/index.html](https://www.tohokuck.jp/contents/bousaiex/index.html)

認定番号：35 サポーター名：佐幸測量設計株式会社

取組  
実績

・産官学連携の情報交換の場である「ふくい里川研究会」メーリングリスト（ML）の運営により、年間を通して、流域治水に関する最新情報や先進事例を紹介した。  
（ふくい里川研究会MLの事務局として）

※「ふくい里川研究会」MLの説明・入会案内は下記URL参照  
[https://www.fukui-navi.gr.jp/ml\\_detail.php?ml=satogawa](https://www.fukui-navi.gr.jp/ml_detail.php?ml=satogawa)

認定番号：36

サポーター名：一般財団法人国土技術研究センター

取組  
実績

①国土技術研究センターに設置した「災害の自分事化協議会」の活動等をWebページに掲載し、流域治水の周知・啓発を図った。

【追加の取組】NIPPON防災資産サポートセンターの設置（R7.2.21）

・NIPPON防災資産の取組の深化・普及に係る支援

<https://www.jice.or.jp/saigai-jibungoto>

②国土技術研究センターにおける流域治水に関する研究成果等を発表、周知した。

・第38回技術研究発表会（R6.7）

<https://www.jice.or.jp/reports/recital/38th>

・JICE REPORT第45号（R6.7）

<https://www.jice.or.jp/tech/reports/detail/16/49>

・第34回日・韓建設技術セミナー（R6.9）

[https://www.jice.or.jp/cms/kokudo/pdf/tech/reports/46/jicereport\\_no46\\_13.pdf](https://www.jice.or.jp/cms/kokudo/pdf/tech/reports/46/jicereport_no46_13.pdf)

・河川管理国際セミナー（韓国）（R6.11）

③先進的な研究・技術開発に対する研究者への助成制度において、流域治水に関する研究課題を3件採択（R6.4）、また、R5年度助成の成果報告会を行い、研究成果を周知した。

<https://www.jice.or.jp/review/assistances/inprogress>

認定番号：37 サポーター名：一般財団法人河川情報センター

取組実績

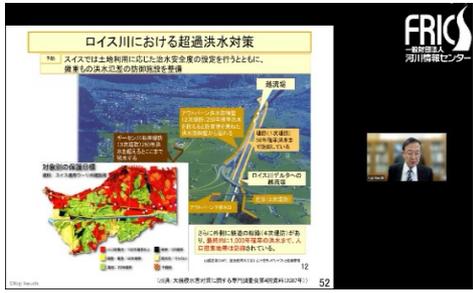
○流域治水の推進において重要な、「防災・減災と情報」の観点から以下の取り組みを進め、流域治水の推進を図った。

・令和6年12月6日に、河川・防災・情報分野を専門とする各界のリーダーによる技術動向・成果の講演およびセンターの成果報告等を行う「河川情報シンポジウム」を開催した。



河川情報シンポジウム（令和6年12月6日）  
会場開催とリアルタイムオンライン配信  
<https://www.river.or.jp/koeki/events/sympo/r06.html>

・令和6年11～12月に、国及び地方公共団体の防災担当者などを対象として、洪水災害時における危機管理能力の向上を目的として「災害危機管理研修」を行った。令和6年10～11月に、国・地方自治体、コンサルタント、測量会社等の河川情報技術に関わる担当技術者を対象として、河川情報の効率的かつ効果的な取り扱いの向上を目的に、「河川情報取扱技術研修」を行った。



河川情報取扱技術研修  
Webオンデマンド方式  
(令和6年11月5日～12月6日)  
<https://www.river.or.jp/koeki/kensyu/2024.html>



災害危機管理研修  
(図上訓練実施状況)  
Webオンデマンド方式  
(令和6年11月6日～11月8日)  
[https://www.river.or.jp/koeki/kensyu/kiki2024\\_2.html](https://www.river.or.jp/koeki/kensyu/kiki2024_2.html)

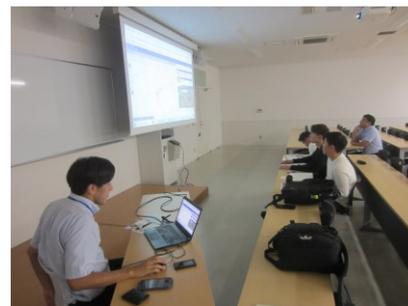
認定番号：37 サポーター名：一般財団法人河川情報センター

## 取組実績

・水害時における住民の安全・安心な避難のため、地域の関係者と連携した「マイ・タイムライン作成リーダー育成研修会」を開催し、住民へのマイ・タイムラインの普及と活用促進を図った。



【在留外国人向け講習会】  
在留外国人の企業代表者等を対象とした避難体験を取り入れた体験型講習



【大学生向け講習会】  
救命救急士等を目指す大学生を対象とした講習会

<https://www.river.or.jp/jigyo/sien/>

・「危機管理型水位計運用協議会」の事務局として運営するとともに、システム事業者として閲覧システム「川の水位情報」を運用した。また、全国水防管理団体連合会（全水管）の事務局として、洪水時等に住民と地域の安全を担う全国の水防団及び水防団員の活動の支援を行った。



令和5年度全国水防大会  
(令和6年4月24日)



水防功労者表彰  
(令和6年4月24日)

<https://www.zensuikan.jp/>

認定番号：38

サポーター名：MS&amp;ADインシュアランスグループホールディングス株式会社

取組  
実績

## 1. MS&amp;ADグループ（以下弊社グループと記載する）の「MS&amp;ADグリーンアースプロジェクト」

○弊社グループとして令和4年度から自然環境の保全・再生や環境負荷低減、防災・減災、地方創生をテーマとした「MS&ADグリーンアースプロジェクト」を開始した。この活動は、eco 保険証券、Web 約款、動画パンフ等の活用による寄付の実施を含む、4つのテーマ（※1以下に補足記載）の実施により、レジリエントでサステナブルな社会の実現を目指している。

## ※1：4つのテーマ

- ・自然環境の保全・再生による防災・減災と地方創生。
- ・ペーパーレスによる環境負荷低減。
- ・電力やガソリン利用の抑制による環境負荷低減。
- ・廃棄物削減による持続可能な資源の利用。

○弊社グループ社員による水災の被害軽減などの社会課題解決に向けた環境保全・再生活動（※2以下に補足記載）は、日本国内3カ所で活動し、社外ホームページで写真と動画による情報を発信した。活動の進捗については、都度活動の公式SNS（インスタグラム）で発信した。

## ※2：弊社グループ社員による環境保全・再生活動

自然が本来持っている、災害を予防したり被害を減らすといった自然の力を維持・回復することによって、地域の課題を解決し、地方創生に繋げていく活動。社員とその家族が、各地の住民や研究機関、行政の方々と一緒に実施している。熊本県球磨川流域と千葉県印旛沼流域では流域治水や水循環の健全化、宮城県南三陸町では地方創生を主なテーマとして、社員が現場で活動に参加しながら学びを深めた。

認定番号：38

サポーター名：MS&amp;ADインシュアランスグループホールディングス株式会社

取組  
実績

## (1) 熊本県球磨川流域

大きな被害をもたらした令和2年7月豪雨を受け、球磨川流域では河川区域だけでなく、流域全体を対象にハードとソフトを組み合わせた新しい考え方の治水対策「流域治水」に、環境的な視点を組み込み、持続的な地域づくりや環境保全も同時に追求する「緑の流域治水」を推進している。この一環として球磨川支流に位置する湿地の保全と自然を活用した防災減災や地方創生に取り組んでいる。

## (2) 千葉県印旛沼流域(印西市,白井市)

印旛沼流域における健全な水循環の維持・創出のため、NPOや研究者による地域での取組みと連携し、水循環の維持・創出に貢献する湿地の保全・再生を中心に、地域の社会課題解決に取り組んでいる。この地域の谷津は、低地の湿地や台地の草原・斜面林等で形成された景観を形成している。この谷津の環境を良くすることで雨水の浸み込みや貯水機能を高め、下流に暮らす地域の方々の安全に貢献しつつ、生物多様性保全、温室効果ガスの削減、水質浄化にも貢献している。

## (3) 社外ホームページで、グリーンアースプロジェクトについて発信

弊社グループ社外ホームページで、グリーンアースプロジェクトの個別ページを作成して情報を発信した。掲載開始は令和4年度、テーマは自然環境の保全・再生や環境負荷低減、防災・減災、地方創生であり、その活動について「MS&ADグリーンアースプロジェクト」として、熊本県球磨川流域、千葉県印旛沼流域、宮城県南三陸町の活動について掲載中である。

認定番号：38

サポーター名：MS&amp;ADインシュアランスグループホールディングス株式会社

取組  
実績

## 2. 「グリーンレジリエンス」活動のPR

弊社グループは、流域治水にもつながる地域の自然を活用した安心・安全というコンセプトを「グリーンレジリエンス」（※1に補足記載）と称し、社外ホームページや新聞広告を通じて、PRを実施した。

## ※1 グリーンレジリエンス

令和3年11月に英国で開催された「COP26」では、2030年までに森林破壊をなくすという目標が提唱され、日本を含む100か国以上の政府が合意し、その解決策として、生態系を活用して気候変動を緩和する「Nature Based Solution」の概念が示された。弊社グループは、生態系を活用して気候変動の緩和と適応等の課題を解決する「Nature Based Solution」を「グリーンレジリエンス」と呼び、いち早く取り組んできた。「グリーンレジリエンス」とは、自然の恵みを活かし、生物の多様性を守りながら、自然災害の被害を和らげ、その魅力で地域も活性化するという、好循環を生み出す考え方である。

認定番号：39 サポーター名：りゅうちるネットワーク

## 取組実績

### ○吉田川高城川流域治水収穫祭（令和6年10月5日）

- ・昨年度開催したキックオフイベントに引き続き、吉田川と高城川の流域治水を推進する収穫祭を開催し、約300人が参加。
- ・流域治水や水害対応の取り組みをパネル展示、川の流れを妨げる樹木伐採用重機や災害時に活躍する排水ポンプ車、拠点機能形成車等の展示、川の生態調査を実施。吉田川・高城川沿いで収穫された農産物の販売も行った。
- ・また、収穫祭が円滑に実行できるよう、複数回にわたり役員会を開催した。



### ○川の流りに感謝のつどい（令和6年11月1日）

- ・吉田川志田谷地防災センターで開催し、各関係機関より約100名の参加をいただき、情報提供や意見交換会を実施した。

（情報提供として）

- ・北上川下流河川事務所 流域治水について
- ・北上土地改良調査管理事務所宮城支所 国営農地防災事業について
- ・宮城県仙台土木事務所 高城川水系流域治水プロジェクトについて

認定番号：39 サポーター名：りゅうちるネットワーク

## 取組実績

- 流域治水セミナー（令和6年11月14日）  
りゅうちるネットワーク役員等5名参加し、北上川下流河川事務所にて地方整備局職員及び地方公共団体職員を対象に、地域とともに進める「命と生業を守る流域治水」について講演（Web形式）させていただきました。
- 商標登録（令和6年11月28日）  
マスコットキャラクターである「りゅうちる」を商標登録。
- 宮城県議会議員会（令和6年12月10日）  
吉田川流域地区の概要を併せて、りゅうちるをパッケージデザインにした「う米米めん」の商品説明を行った。



- 水辺・絆プロジェクト事業報告会（令和6年12月20日）  
りゅうちるネットワーク役員等3名参加し、北上川下流河川事務所にて事業報告をさせていただきました。

認定番号：39 サポーター名：りゅうちるネットワーク

## 取組実績

○川の流れに感謝のつどい（令和7年1月10日）

高城川かたらいの水辺公園にて神事。関係者50名参加し地域の安全や豊穡を祈願した。その後、志田谷地防災センターに移動し情報提供や意見交換会を実施した。



○高城川河道調査（令和7年1月28日）

宮城県議会議員、仙台土木事務所等関係機関にご協力いただき明治トンネルから高城川防潮樋門までの約3 kmを舟2艘で河道調査を行った。



認定番号：39

サポーター名：りゅうちるネットワーク

取組  
実績

- 令和6年度知水講座（令和7年2月5日）  
宮城県主催の知水講座に講師として参加し、約80名の方にりゅうちるネットワークとしての取り組みを講演させていただいた。
- 流域治水出前講座（令和7年2月13日）  
大崎市鹿島台小学校の4年生、6年生を対象に流域治水について、北上川下流河川事務所と合同で実施した。
- 高城川スマイルサポーター（令和7年2月21日）  
関係企業体より約30名にご協力いただき、高城川に架かる大友橋から下流200mまでの区間の刈払いを実施した。

認定番号：40

サポーター名：スズキ株式会社

## 取組実績

### ①展示会出展

2024年4月『バリアフリー2024』2024年5月『防犯防災総合展2024』に出展し、セニアカー災害時利活用の提案並びに反響収集を実施した。

2024年4月16日 プレスリリース：<https://www.suzuki.co.jp/release/d/2024/0416/>

### ②避難訓練実施

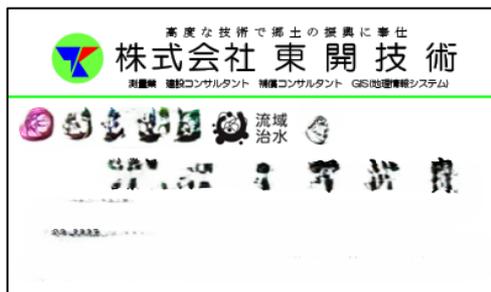
地域の自治会や福祉施設と連携してセニアカーを活用した避難訓練を実施した。  
(大阪府松原市、奈良県広陵町、兵庫県神戸市)

2024年12月17日 プレスリリース：<https://www.suzuki.co.jp/release/d/2024/1217/>



認定番号：41 サポーター名：株式会社 東開技術

取組実績 1.流域治水ロゴマークを記載した社員名刺作成および配布  
弊社の社員名刺（※加工）



弊社Wedページリンク：  
<http://www.toukai1311.co.jp/>

2.配布・掲示資料による普及活動



社内掲示風景

3.避難所の提供  
災害等なく提供実績なし。

認定番号：42 サポーター名：勇建設株式会社

取組  
実績

- ・当社ホームページにおいて、流域治水専用ページを開設し、閲覧者に対して趣旨、取組の内容がわかるように発信しました。また当社が施工した関連する工事を紹介しました。  
(当社ホームページ：<https://www.isami-con.co.jp/nintei2.html>)
- ・社内WEB掲示板を利用し、ホームページに特集ページを開設していることを周知しました。

認定番号：44 サポーター名：一般社団法人 中国建設弘済会

## 取組実績

1. 防災講演会の実施（令和6年11月20日）  
『8.20 広島土砂災害』から10年、あのとときの課題はどう克服されてきたか？  
平成26年8月20日に発生した広島土砂災害から10年という節目の年を迎え、当時指摘された様々な問題に関係者がどのように取り組んできたのかを再考。砂防学、気象学の専門家による基調講演とともに、各分野の専門家のこれまでの取り組みを紹介。今後どのように備え、どのように取り組むべきかについて、聴講者と一緒に考える機会とするシンポジウムを開催。（会場：広島YMCA 国際文化ホール）



2. 河川管理者が主催する水防演習並びに水防技術講習会の参加

- ①日野川総合水防演習（令和6年5月25日）に、防災エキスパートを参加。
- ②管内堤防決壊シミュレーションに防災エキスパートを参加。
- ③管内13水系の河川堤防点検に防災エキスパートを参加。

認定番号：45      サポーター名：株式会社 福田水文センター

## 取組実績

1. 地域の子どもたちや市民に対して、水環境保全や流域治水に関する教育活動の実施ほか
  - 天塩町役場・天塩高校生に鏡沼の水質説明・採水作業などの環境学習（水質と水生生物）2024/09/06
  - 天塩川 川の総合学習「水質と水生生物」（2024/07/10）
  - 小学生対象の水生生物による水質簡易検査「水質と水生生物」  
今金小学校（2024/07/12）/種川小学校（2024/07/8）/北檜山小学校（2024/07/11）
  - 後志利別川 清流まつり学習コーナーにて川に棲む水生生物の展示（2024/7/27）
  - 「北村の川を知る河川調査実行委員会」活動の実行委員会構成団体の一員として、体験調査の運営を支援（2024/09/09）  
※当委員会では、地域を流れる旧美唄川を再認識し川との共生を図ることを目的として「五感で川を感じよう体験調査」を実施
  
2. 魅力的な水辺空間のPRや水辺利活用を促進し、地域振興を図る『かわたびほっかいどう』プロジェクトの推進
  - オンライン・サイクリスト応援カーイベントに参加(当社の河川調査車両に『かわたびほっかいどう』ロゴを掲示)
  
3. 継続的に取り組んでいる当社クリーン活動、および河川クリーン活動の実施により、河川美化と流域治水に資する河川流下能力の維持を図る
  - 当社クリーン活動：札幌本社（琴似川管理道路周辺）（2024/06/21,10/21）  
※いずれも弊社HPの以下のURLから整備でき次第ご確認いただけます  
(<http://www.f-suimon.co.jp/tisui/>)

認定番号：46/47

サポーター名：株式会社静岡新聞社／静岡放送株式会社

取組  
実績

①国土交通省浜松河川国道事務所長がラジオ番組に出演。主に下記について番組パーソナリティからの質問に答えながら、防災啓発につながる情報を発信。

- ・浜松河川国道事務所の紹介
- ・R5.6台風時の被害と振り返り
- ・大雨発生時のリスク確認について
- ・大雨発生時の避難方法について
- ・国土交通省の取り組み

②自治体、民間会社、国土交通省浜松河川国道事務所がそれぞれの立場で主に下記について座談会を実施。流域住民に対する流域治水の周知・啓発につながる記事を新聞紙面に掲載。

- ・近年の洪水の被災状況、住民避難状況について
- ・避難指示発令時の現場の状況について
- ・流域治水の取り組みについて
- ・流域治水のさらなる推進に向けて

認定番号：48 サポーター名：株式会社 日立パワーソリューションズ

取組  
実績

● 24年7月～8月 セミナー開催

・流域治水をテーマにした無償のオンラインセミナー、ハンズオンセミナーを複数回開催。大学の先生に講演頂くと共に、水害シミュレーションも実際に操作頂き流域治水の理解の醸成を図った。

オンライン&ハンズオンセミナー（2024年7月開催）

([https://diovista-ja.hitachi-power-solutions.com/cover/cover\\_hands-on-seminar-202407.html](https://diovista-ja.hitachi-power-solutions.com/cover/cover_hands-on-seminar-202407.html))

認定番号：49

サポーター名：三井住友海上火災保険株式会社

取組  
実績

## 1. 流域治水に関連する研究活動への参加

- ・熊本県立大学「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会 地域共創拠点」に参画、共同研究を推進。

2. 国内の湿地・里山の保全再生活動を通じた流域治水への貢献  
(グループで推進するMS&ADグリーンアースプロジェクト)

- ・自然環境の保全・再生や環境負荷低減、防災・減災、地方創生をテーマとしたグループ共通取組「MS&ADグリーンアースプロジェクト」において、社員とその家族などが日本国内の湿地・里山・藻場で保全再生活動を実施している。
- ・3つの活動拠点である、(1) 熊本県球磨川流域、(2) 千葉県印旛沼流域、(3) 宮城県南三陸町のうち、(1) (2) については以下のとおり、流域治水に貢献する取組である。

## (1) 熊本県球磨川流域

大きな被害をもたらした令和2年7月豪雨を受け、弊社グループは熊本県では自然環境との共生を図りながら、流域全体の総合力で安全・安心を実現する「緑の流域治水」を推進している。令和3年度から熊本県球磨川流域で熊本県立大学の研究「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会地域共創拠点」に参画した様子について情報を発信している。弊社グループの活動テーマは、地元研究機関の熊本県立大学の研究「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会 地域共創拠点」への参画と、流域の上流や下流における防災減災取組み活動、生物多様性の保全及び地方創生である。

認定番号：49

サポーター名：三井住友海上火災保険株式会社

取組  
実績

## (2) 千葉県印旛沼流域

印旛沼流域における健全な水循環の維持・創出のため、弊社グループはNPOや研究者による地域での取組みと連携し、水循環の維持・創出に貢献する湿地の保全・再生を中心に、地域の社会課題解決に取り組んでいる。この地域の谷津は、低地の湿地や台地の草原・斜面林等で形成された景観を形成している。この谷津の環境を良くすることで雨水の浸み込みや貯水機能を高め、下流に暮らす地域の方々の安全に貢献しつつ、生物多様性保全、温室効果ガスの削減、水質浄化にも貢献活動に携わっている。

## 3.大規模雨水タンクの設置と運用

- ・三井住友海上駿河台ビル（本社）の地下に3,500トンの容量の雨水タンクを竣工時（1984年）に設置。大雨の前には手動でタンクを空にし、雨水を貯めおくことで、下水道への流入量を減らし、内水氾濫の抑制に貢献。同ビルは、屋上庭園などでも土壌による蓄雨を実現。
- ・2024年度は、大規模雨水タンクの継続運用を実施した。
- ・オフィシャルサイトにおいて、当社ビルのレインガーデンや駿河台ビルの地下には大型の雨水槽について情宣を実施。  
([https://www.ms-ins.com/company/csr/nature\\_positive/](https://www.ms-ins.com/company/csr/nature_positive/))
- ・社員向けセミナーでも、弊社が設備として大規模雨水タンクの設置・運用をしていることを取り上げ、ゲリラ豪雨や台風で下水に一気に流れる雨水を雨水槽で受け止めることにより、都市型洪水の減災に貢献していることを案内した。

認定番号：50 サポーター名：アゼックス株式会社

取組  
実績

- ・「田んぼダム装置」の周知に関する自社HP内専用ページを設置した  
(<http://www.tambo-dam.com/>)
- ・「田んぼダム装置」に関する市場調査として装置の設置圃場を視察し、すでに開設済みの自社HP内専用ページを活用して、その様子を写真とともに掲載し、流域治水に関する現場での取り組み事例を周知した  
(<http://www.tambo-dam.com/blog/>)
- ・令和6年11月27日・28日 東京千代田区砂防会館別館で開催された多面的機能の全国シンポジウムに田んぼダム装置「イレタママ」を出展。

認定番号：51 サポーター名：飯田環境保全会

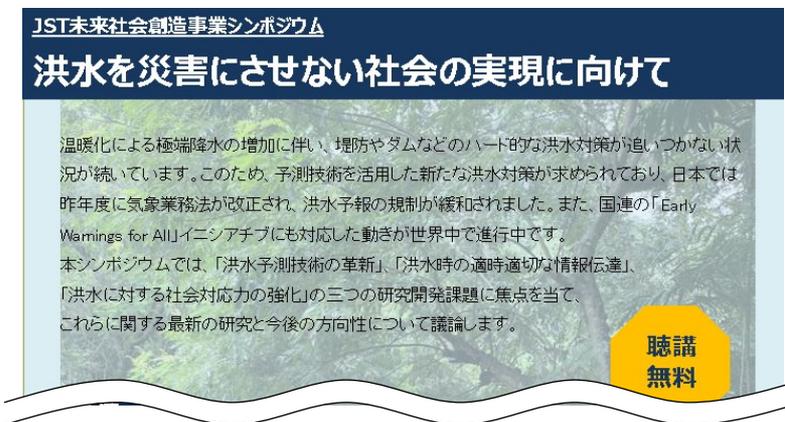
- |      |  |
|------|--|
| 取組実績 | <ul style="list-style-type: none"><li>・田んぼダム約30ha</li><li>・2025.01.10佐倉市市立美術館にて田んぼダム普及のための説明会実施<br/>(参加者は佐倉市および近隣市町)</li></ul> |
|------|--|

認定番号：52 サポーター名：洪水予測データ活用型流域治水共同研究メンバー  
(東京大学・名古屋大学・京都大学・JAXA・あいおいニッセイ同和損保)

取組実績

●令和6年10月25日、東京大学柏キャンパスでJST未来社会創造事業シンポジウム「洪水を災害にさせない社会の実現に向けて」開催。洪水予測技術の革新、洪水時の適時適切な情報伝達、洪水に対する社会対応力の強化、という流域治水の具体策をテーマとして発表、議論。同シンポジウムのフライヤーに流域治水ロゴ掲載

(<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/event/kashiwa/opencampus2024/>)



12:00	<p><b>パネルディスカッション</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第一部：予測技術と気象制御との関わり パネリスト 研究開発項目1及び研究開発項目2の講演者に加え 横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授 満行 泰河 氏 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 担当次長 多嘉良 朝恭 氏 災害モンスター研究所 所長 石橋 健次 氏</li> <li>第二部：自治体における社会対応力強化 パネリスト 研究開発項目3の講演者に加え 同志社大学 大学院司法研究科 准教授 重本 達哉 氏</li> </ul>
12:50 13:00 閉会	<p><b>閉会挨拶</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東京大学 生産技術研究所 所長 年吉 洋 氏 (オンライン)</li> </ul>

 流域治水

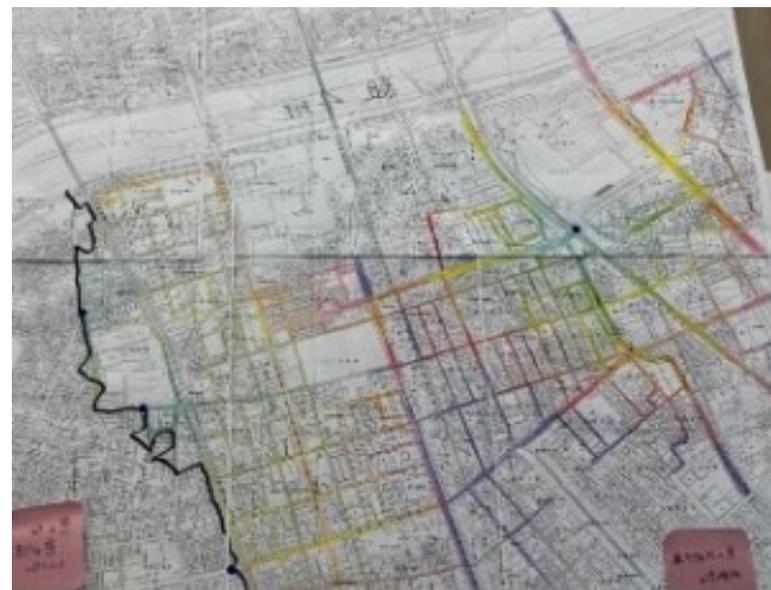
●令和6年11月12日、埼玉大学産学官連携協議会による活動の一環として開催された「防災DX研究会セミナー」にサポーターが登壇。被災直後の情報空白期を打破する取り組みとして、住民参加型防災という流域治水を提唱。当日の発表資料の表紙に流域治水ロゴ掲載

([https://www.saitama-u.ac.jp/research/topics/archives/20241112\\_BSDX.html](https://www.saitama-u.ac.jp/research/topics/archives/20241112_BSDX.html))

認定番号：53 サポーター名：損害保険ジャパン株式会社

## 取組実績

- 当社は、認定NPO法人日本都市計画家協会との連携により、災害時の避難経路を色鉛筆で塗り分けるSOMPO流「逃げ地図」※づくりを令和5年12月から全国で展開している。 ※「逃げ地図」は株式会社日建設計の登録商標です。
- 「逃げ地図」づくりワークショップを各地区の自治体、教育機関、企業などと協力して計39回開催し、合計1,522名が参加した。(令和6年4月1日～令和7年1月31日集計)



認定番号：54 サポーター名：株式会社 東京建設コンサルタント

取組実績 ○活動として「水防に関する情報の収集及びその提供や広報活動」として関西本社内でのポスター掲示およびチラシ配布を行っている。



※エレベータ内にポスター掲示

認定番号：55 サポーター名：株式会社 毎日新聞社

取組  
実績

水害を経験した全国の地方自治体のトップが対策などについて意見交換する「第19回水害サミット」（同実行委員会、毎日新聞社主催）が、当初予定通り令和6年6月11日に行われました。

第1部は「公共と民間の共創で取り組む流域治水」、第2部は「水災害リスクを自分事として捉え、主体的な避難行動を促す情報発信」をテーマに、14道府県22自治体の首長と齊藤鉄夫国土交通大臣（当時）が参加し、事例発表や熱心な質疑が交わされました。

「水害サミット」の様子は、毎日新聞で特集を掲載すると共に、「ソーシャルアクションラボ」のサイト（<https://socialaction.mainichi.jp/2024/07/29/10651.html>）でも特集を掲載しています。

認定番号：56      サポーター名：特定非営利活動法人日本トイレ研究所

取組  
実績

○令和6年5月～令和7年2月に、ウェブページにおいて、流域専用Webページのリンク及びロゴを紹介し、流域治水の趣旨、取組を周知した。

○9月、地方公共団体の災害時におけるトイレの備えに役立つ情報を提供することを目的に「防災トイレフォーラム2024 in 倉敷」を開催、ネットワークインフラである下水道の利用者は水害時における流域全体での視点をもってトイレ対策を検討することが必要になるため、流域治水の趣旨、取組を周知した。

認定番号：57      サポーター名：やまがたメイカーズネットワーク（略称：YMN）

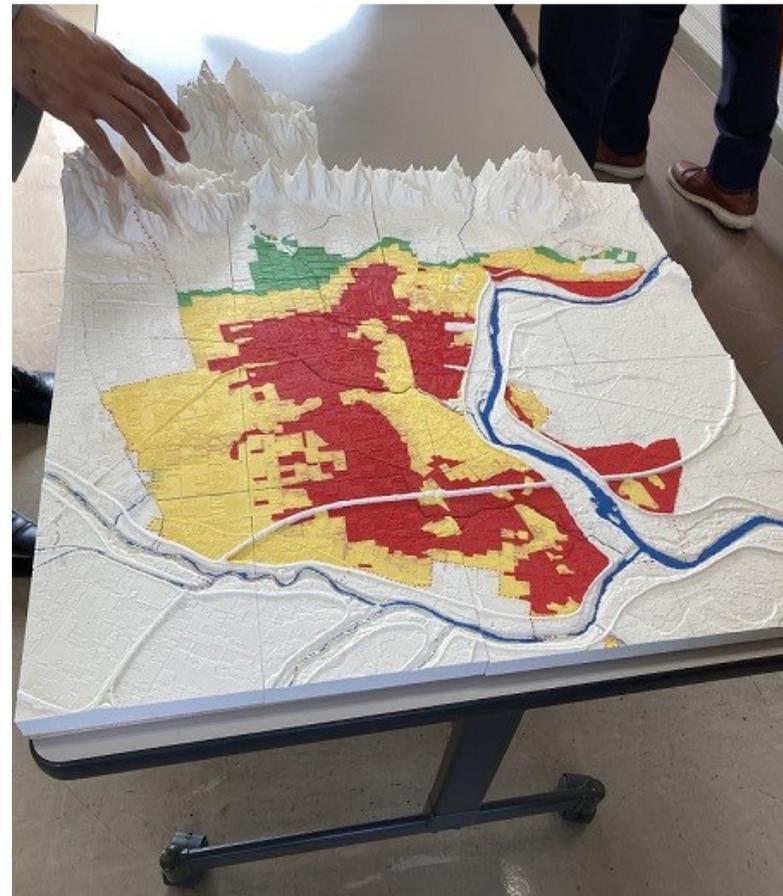
## 取組実績

- 市民向けマイ・タイムライン研修会への参加
    - 日時：令和7年1月19日（日）10:00～12:00
    - 会場：シェルターなんようホール（山形県南陽市） 小ホール
    - 共催：最上川上流大規模氾濫時の減災対策協議会 他
  
  - プロジェクト「中山町3Dハザードマップの製作～3Dプリンターの利用～」の実践（ねらい）
    - ・防災意識向上：河川の氾濫の被害を防ぐ
    - ・新技術の利用：3Dプリンターの技術を生かす・人材育成
    - ・地域貢献：地域の防災研修会のわかりやすい資料提供
 （実践内容）
    - ①山形県立天童高等学校生徒への出前授業（3Dプリンターの概要、実践内容）
    - ②3Dハザードマップのデータづくり
      - 国土地理院地図を利用した中山町立体地図のデータの作製
      - ハザードマップの浸水予想地域の着色
    - ③3Dプリンター出力（タイルの出力）
    - ④タイルの仕上げと接着
    - ⑤令和7年3月27日（木）中山町役場にて山形県中山町長様へ贈呈
- ※タイルとは地図データをタイル状に分割したものを呼んでいる。

認定番号：57

サポーター名：やまがたメイカーズネットワーク（略称：YMN）

取組実績



認定番号： 58      サポーター名： 有限会社 久保田建設

取組実績	自治体との災害協定をR6年度も継続
------	-------------------

認定番号：59

サポーター名：株式会社テイデイー

## 取組実績 1. ワンコイン浸水センサ実証実験への参加および普及促進活動

国土交通省にて行われている「ワンコイン浸水センサ実証実験」に継続的に参加し、参加自治体と共にワンコイン浸水センサの運用や活用方法などを検討、検証している。

また参加検討自治体や実証実験を知らない自治体などに対し、実機を用いたデモなどを行い、普及促進活動を行った。

希望する自治体には、国土交通省の実証実験に参加する前に機器費・設置費・通信費などを弊社で負担し、無償での実証などを行った。

## 2. 危機管理型水位計など流域治水に関わるセンシング機器の無償実証

危機管理型水位計など河川および流域治水に関わるセンシング機器の無償実証実験を希望する自治体で行った。

また同じ流域治水オフィシャルサポーターである因幡堰土地改良区様の田んぼダムにIoT水位計を設置し、因幡堰土地改良区で所有している田んぼダムの効果検証と共に、田んぼダムにおけるセンサ・水位計の有効性の検証を行った。



(図1) 福島県白河市様へのデモ機を使った説明・情報共有の場



(図2) ワンコイン浸水センサを用いた自治体との防災訓練



(図3) 因幡堰土地改良区様との共同実証実験

認定番号：59 サポーター名：株式会社テイデイイー

取組  
実績

### 3.流域治水の普及活動

様々な関係者に流域治水を知っていただくために、金融機関などに流域治水のチラシを設置した。

また各自治体と水防協力団体認定に向けて協議を行っており、水防協力団体指定に向けて、地域の水防訓練に参加した。



(図4)

水防協力団体認定に向けて水防訓練への参加



(図5-1)

金融機関での流域治水のチラシの設置・普及活動



(図6)

自治体の催しでの流域治水のチラシの設置・普及活動

認定番号：60 サポーター名：特定非営利活動法人 みさと田園空間クリエイターズ

取組実績	田んぼダムの取組は、令和元年度より取組を行い今年度で6年目になりました。令和6年度は、取組面積の拡大はありませんでしたが、昨年度同様に総取組計画面積を拡大するために課題等の解決に向け取組を継続しています。
------	--

認定番号：62

サポーター名：一般財団法人 石狩川振興財団

## 取組実績

- ・8月に財団機関誌「川と人」を発行し、流域治水の取組等を紹介した。
- ・11月に石狩川流域全46市町村の治水・まちづくり担当部課長による「市町村河川情報委員情報交換会議」を開催し、流域治水に関する最新情報提供や会場での流域治水に関するパネル展を行った。
- ・毎月、石狩川流域全46市町村の治水・まちづくり担当部課長等へメール配信する「市町村河川情報委員ニュース」で流域治水に関する最新情報を提供した。



認定番号：63 サポーター名：株式会社 田中組

## 取組実績

・ホームページに北海道開発局・北海道・札幌市の流域治水関連のリンクを貼り、流域治水の趣旨、取組を周知。また、流域治水に関する当社施工工事を紹介した。

(<https://tanakagumidx.my.canva.site/nintei>)

・上記各自治体と災害応急対策業務に関する協定を締結し、緊急時の資材を倉庫に保管している。



認定番号：65 サポーター名：有限会社 モリケン

取組  
実績

- ・当該期間中、弊社HP等による国土交通省の流域治水事業の広報活動を行った。  
(<https://sites.google.com/view/moriken/>)
- ・また、弊社取引先等に、河川愛護モニター、水防団の参加、国土交通省等のSNS等のフォローの呼びかけを行った。
- ・当該期間中、弊社社員により、従来より行っている河川（揖斐川等）の清掃活動を行うことで、洪水等の際に河川の働きを妨げる廃棄物等の通報、撤去ボランティアを行うとともに、川にゴミが落ちないようにすることで河川の機能を守る活動を行った。

認定番号：66      サポーター名：株式会社かみえちご測地

取組実績  
・流域治水ロゴマークとWebのQRコードを記載した社員名刺を関係各所に配布した。



令和 年 月 日

世界初！超ロングフライトのUAVレーザ測深。

 i-Construction

代表取締役 **木村良彦**  
Yoshihiko Kimura

 流域治水



**株式会社かみえちご測地**

〒942-0082 新潟県上越市国府3丁目7番16号  
TEL : 025-520-8571 FAX : 025-520-8572  
MAIL : info@kamiechigo.com  
URL : <https://kamiechigo.com/>

 DOTS

認定番号：68 サポーター名：株式会社 ダイワ技術サービス

## 取組実績

- HPとSNS (X) において、流域治水オフィシャルサポーター認定を公表
- ・SNS (X) において、ダム管理者（直轄・水資源）のポストをリポスト等し、流域治水情報を発信。
- ・受注業務において、低水流量観測高度化採水・河川巡視高度化などの活動を行い流域治水高度化に貢献。
- ・高等学校のインターンにおいて、一級河川 阿武隈川をメインとした学習を行い、阿武隈大堰の役割等を生徒達に説明。  
(東北地方整備局 仙台河川国道事務所 職員に流域治水の説明を依頼)



認定番号： 69      サポーター名：アース製薬株式会社

取組実績	<ul style="list-style-type: none"><li>・令和6年6月 神戸市と「防災」に係る包括連携協定締結 (<a href="https://corp.earth.jp/jp/event-report/2024/pdf/20240610-01.pdf">https://corp.earth.jp/jp/event-report/2024/pdf/20240610-01.pdf</a>)</li><li>・令和6年12月 福岡県と「防災」に係る包括連携協定締結 (<a href="https://www.pref.fukuoka.lg.jp/site/chiji-top/kyoutei20241224.html">https://www.pref.fukuoka.lg.jp/site/chiji-top/kyoutei20241224.html</a>)</li><li>.....</li><li>・令和6年4月 千葉県立八街高校にて「衛生用品防災備蓄自販機」設置 (<a href="https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/seisaku/kouhou/news/r6/335-1-2.html">https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/seisaku/kouhou/news/r6/335-1-2.html</a>)</li><li>・令和6年5月 尾張旭市「ほんまる」に「衛生用品防災備蓄自販機」設置</li><li>・令和6年8月 千葉県「セコメディック病院」に同自販機を設置</li><li>・令和6年8月 盛岡市「アイーナ」にて、同自販機を設置 (<a href="https://corp.earth.jp/jp/event-report/2024/pdf/20240829-01.pdf">https://corp.earth.jp/jp/event-report/2024/pdf/20240829-01.pdf</a>)</li><li>・令和6年10月 神戸市太田中学校に、同自販機を設置</li><li>・令和6年12月 兵庫県防災センターに、同自販機を設置 (<a href="https://corp.earth.jp/jp/event-report/2024/pdf/20241218-01.pdf">https://corp.earth.jp/jp/event-report/2024/pdf/20241218-01.pdf</a>)</li><li>.....</li><li>・令和6年5月 長崎県防災訓練に「衛生用品防災備蓄自販機」を出展 (<a href="https://corp.earth.jp/jp/event-report/2024/pdf/20240525-01.pdf">https://corp.earth.jp/jp/event-report/2024/pdf/20240525-01.pdf</a>)</li><li>・令和6年9月 兵庫県赤穂市防災イベントに出展</li><li>・令和7年1月 神戸市防災のつどいにて、同自販機を出展 (<a href="https://corp.earth.jp/jp/event-report/2025/pdf/20250119-01.pdf">https://corp.earth.jp/jp/event-report/2025/pdf/20250119-01.pdf</a>)</li><li>・令和7年2月 千葉県白井市防災訓練にて、同自販機を出展</li><li>・令和7年2月 日本災害医療薬剤師学会学術大会にて同自販機を出展</li><li>・令和7年3月 熊本県立宇土中学校・宇土高校にて「衛生用品防災備蓄自販機」設置 (<a href="https://uto-sh.com/blog/858-2025-03-31-03-01-43.html">https://uto-sh.com/blog/858-2025-03-31-03-01-43.html</a>)</li></ul>
------	--

認定番号：70 サポーター名：共和コンクリート工業株式会社

取組実績 ○制度実施規約に示された項目1～3周知活動を実施しました。

### (1)企業等のWEBページへの掲載

社外配信HPで流域治水オフィシャルサポーター制度や認定企業であることを周知しました  
([https://www.kyowa-concrete.co.jp/info\\_kyowa20241220.html](https://www.kyowa-concrete.co.jp/info_kyowa20241220.html))

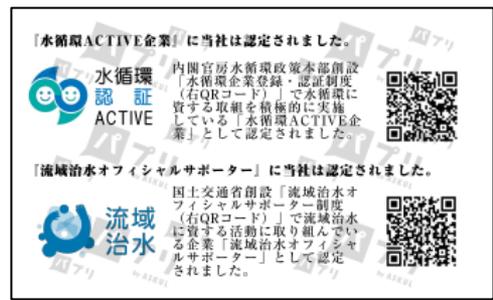


### (2)流域治水に関する広報資料の配布

流域治水ロゴ入り名刺で流域治水に関するサポーター制度や認定企業であることを周知しました。



名刺（表の例）



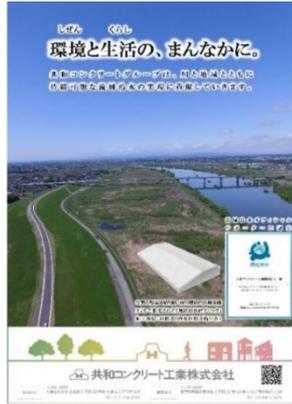
名刺（裏の例）

認定番号：70

サポーター名：共和コンクリート工業株式会社

取組  
実績

(2)流域治水に関する広報資料の配布、掲示、アナウンス  
流域治水に関するオリジナルポスターやチラシ等を制作し、社内やイベント等での掲示・配布により、サポーター制度や認定企業である事を周知しました。



ポスター・チラシ（表）



チラシ（裏）

(3)各種イベントでの紹介

「建設技術フェア2024in中部」にて来場者（コンサル・官公庁・学生等）との流域治水ロゴ入名刺の交換やポスター・チラシでの説明、ノベルティ配布（パッケージ印刷）による普及活動を行いました。

(<https://www.kgf-chubu.com/outline/index.html>)



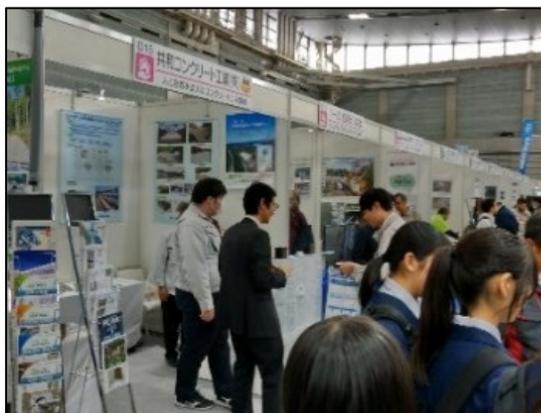
認定番号：70 サポーター名：共和コンクリート工業株式会社

取組  
実績

### (3)各種イベントでの紹介

「先進建設・防災・減災技術フェア in 熊本 2024」にて来場者（コンサル・官公庁等）との流域治水ロゴ入名刺の交換やポスター・チラシでの説明による普及活動を行いました。

(<https://www.s-kumamoto.jp/outline/index.html>)



認定番号： 7 1      サポーター名：パシフィックコンサルタンツ株式会社

取組  
実績

流域治水・防災に関する話題・取組の紹介

- ① 中学・高校・大学等への講師派遣
- ② 社会見学（当社：つくば技術研究センター等）。
- ③ 社内流域治水勉強会
- ④ 流域治水プロジェクト現場見学
- ⑤ 世界防災フォーラムでの配信

認定番号：72 サポーター名：一般社団法人みなみあそ観光局

**取組実績**  
 ○2024年2月に完成した「阿蘇立野ダム」は白川流域の洪水調節を目的として建設されている。この立野ダムを起点として下流域である熊本市内の小中学校を主な対象とした水防災プログラムを開発し受付を行っており、河川事務所と連携しガイドは流域治水の講習を受けプログラム内容の充実化を図っている。

## 防災・土木 水災害への備え・流域治水を学ぶ阿蘇立野ダム見学プログラム

阿蘇カルデラから熊本市へと流れる一級河川「白川」。現在、その上流部となる阿蘇カルデラの外輪山の唯一の切れ目(立野峡谷)に2024年2月に完成した「阿蘇立野ダム」。白川沿川の洪水被害を防ぐための「洪水調節専用ダム」で、普段は水を貯めない「流水型穴あきダム」といった特徴があります。近年、豪雨・洪水が頻発しているからこそ一般の方からも注目を集める水防災の仕組み、そして過去の洪水被害を振り返り、水災害を「自分ごと」としてとらえ主体的に行動する流域治水の考え方を学びます。

阿蘇カルデラの切れ目に位置する立野ダム

2024年2月に完成

ガイドによる現場での解説

立体地図などを使った解説

過去発生災害からの学びと備え

学びのポイント

<p><b>【プログラム内容】</b>                  ダム広報室見学・・・30分/ダム現場見学・・・30分</p> <p style="background-color: yellow;">※2024年3月時点の内容です。                  ※人数・料金など詳細はお申込みの際に調整いたします。</p>	<p><b>【受入人数】</b> 通年 1～2クラス程度(30名～)  <b>【集合場所】</b> 阿蘇立野ダム管理庁舎(熊本県阿蘇郡南阿蘇村立野)  <b>【所要時間】</b> 60分  <b>【料金】</b> 1人:500円(税込) <b>【対象】</b>熊本市内小中学校  <b>【申込問合せ】</b> 一般社団法人みなみあそ観光局(TEL: 0967-67-2222)</p>
---	--

認定番号：73 サポーター名：セントラルコンサルタント株式会社

## 取組実績

①自社ホームページに、国土交通省の流域治水サポーター制度への取り組み概要を紹介するとともに、自社が「流域治水オフィシャルサポーター」の認定を受けた旨の告知を行った。また、国土交通省の「流域治水オフィシャルサポーター制度」のホームページサイトへのリンク先バナーを合わせて掲載した。



(自社ホームページサイト)

認定番号：73

サポーター名：セントラルコンサルタント株式会社

## 取組実績

②宮城県仙台市の「夢メッセみやぎ」で、令和6年6月5日、6日の2日間にわたり開催された東北最大級の建設関連企画展の「EE東北'24」に自社ブースを出展し、その中で「ITCを活用した流域治水対策の見える化」をテーマとした技術コンテンツの展示を行った。

【企画展来場者数】6月5日（9,800人）・6月6日（7,300人）

【ブース訪問数】一般：54名、大学生：21名、高校生：34名



認定番号：74 サポーター名：株式会社 エイト日本技術開発

取組  
実績

- ①STIV解析を用いた流量観測の高度化及びリアルタイム予測システムの研究
- ②流域治水に係わる情報収集と社内周知・自治体支援
  - 1)「流域治水」ロゴマーク付  
名刺デザインの作成
  - 2) 岡山県矢掛町総合防災フェアへの出展  
(関連サイト：全国流域治水MAP  
- 国土交通省水管理・国土保全局)
  - 3) 流域治水ロゴマークステッカーのイベント等での配布
  - 4) 社内フォーラムにおける「流域治水」の紹介



認定番号： 75      サポーター名：エヌエスティ・グローバルリスト株式会社

取組  
実績

○HPへの掲載：<https://www.nstg-sr.com/business/>

認定番号：76

サポーター名：株式会社 川瀬組

取組  
実績

高校生を対象とした企業説明会（令和6年度に2回出展）において、当社が過去に施工した河川工事の説明の際に、当該工事の施工が災害の未然防止の役割を果たしていることを説明を実施したうえで、流域治水対策の重要性を若い世代に発信を行った。



認定番号： 77      サポーター名：インフラテック株式会社

**取組実績** ○2024年7月より、弊社Webページにて流域治水の趣旨と取り組みを紹介するページを作成・掲載いたしました。また、流域治水に関するページへのリンクも掲載し、広報活動を行っております。

- ・「流域治水オフィシャルサポーター制度」について
- ・カワナビ 国土交通省 水管理・国土保全局
- ・国土交通省「流域治水の推進」ページ
- ・国土交通省「流域治水プロジェクト」  
(<https://www.infratec.co.jp/2-uncategorised/2811-52362.html>)

○社内研修において、流域治水に関する座学を実施し、考え方や重要性等について説明。社内掲示用ポスターも作成し活用。



認定番号：78

サポーター名：株式会社リブテック

取組  
実績

- 自社のホームページに流域治水を紹介するページを令和6年10月に開設した。
- ・流域治水の趣旨や取組事例として、国土交通省 水管理・国土保全局に掲載されている「流域治水の推進」等のWebサイトを紹介した。
- ・防災教育や防災情報として、子供から大人まで幅広い方に理解を深めてもらうため、国土交通省や政府広報オンラインに掲載されているWebサイトを紹介した。
  
- 防災意識向上を図るための啓発活動
- ・令和6年9月に当社で実施したインターンシップでは、流域治水の必要性や具体的な取組、わたしたちができる流域治水についての説明やマイ・タイムラインの作成実習を行った。
- ・令和6年7月に小学生を対象とした水防に関する学習会では、水害の危険性や安全な避難行動を学ぶ「防災クイズ」や、「逃げキッド」を使用したマイ・タイムライン作成を行った。
  
- 取組内容のWebページ  
(<https://www.rivtec.co.jp/official-supporter/>)

認定番号：79

サポーター名：株式会社プロテックエンジニアリング

取組  
実績

## ●WEBページを活用した啓発活動

自社Webページにおいて、流域治水の考え方・必要性・意義等の説明と取組を周知するページを作成。国土交通省「流域治水の推進ページ」へリンクを展開し、流域治水の理解促進を図った。（URL：<https://www.proteng.co.jp/ryuiki-chisui.php>）



自社WebページのTOPバナーで展開

## ●社員への教育、名刺交換での啓発活動

社内で流域治水についての勉強会を各拠点で実施し、基本的な考え方から取組む目的と内容を共有。また、名刺に「流域治水オフィシャルサポーター」と印字し、社外でも取組内容を説明できるよう教育を行った。名刺交換の際に流域治水の理解促進を図った。

認定番号：80 サポーター名：草野作工株式会社

## 取組実績

2018年9月6日に発生した北海道胆振東部地震及びそれに伴う道内全域ブラックアウトにより、弊社が所在する江別市内も全域停電となりました。

弊社では従来から江別市と災害時における連携を行っており、弊社が所有する生活用水用の井戸も「江別市災害時協力井戸」として登録しています。

一方、弊社では非常用発電機を保有していなかったため、昼間の事業継続や夜間の一時避難所としては機能することができなかつたことが大きな課題として残ったため、災害時及び停電時における弊社施設の一般開放や電力の提供（照明・暖房・コンセント等）を行うことを目的として、2020年9月に非常用自家発電機及び燃料の自衛的備蓄を整備することとしました。（<https://www.kusanosk.co.jp/eco/8216>）



非常用自家発電装置（本社敷地内）



非常用地下水（本社敷地内）

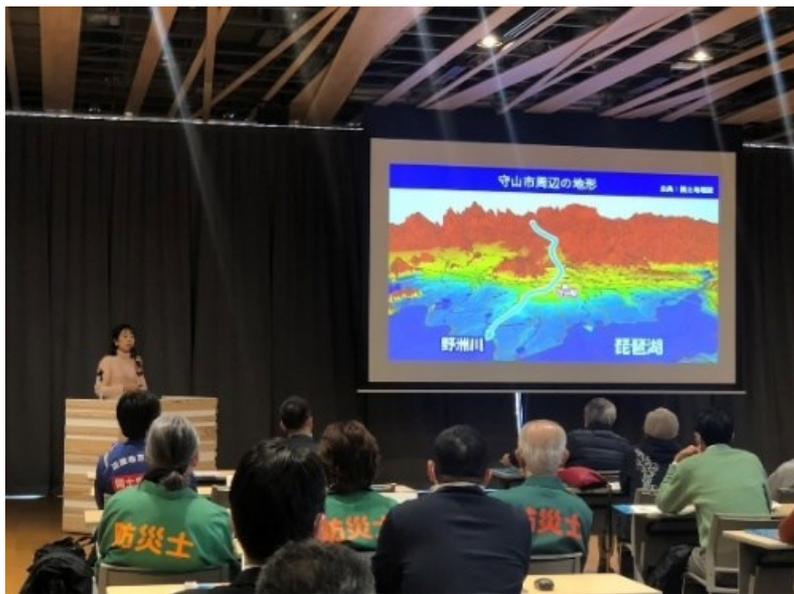
認定番号：81 サポーター名：オフィス気象キャスター株式会社

## 取組実績

### ■ マイタイムライン講習会に気象キャスターを派遣

- ・新潟県三条市にて（令和6年8月3日）
- ・東京都中央区にて（令和6年9月8日）
- ・奈良県田原本町にて（令和6年9月22日）
- ・滋賀県守山市にて（令和7年1月18日）
- ・大阪市住吉区にて（令和7年2月1日）

等 計 13回実施



滋賀県守山市(令和7年1月18日)実施の様子



大阪市住吉区 (令和7年2月1日)実施の様子

認定番号： 8 1      サポーター名： オフィス気象キャスター株式会社

## 取組実績

- 子ども向けお天気講座「お天気魔法教室」実施
- ・三重県「フレンテみえ」にて（令和6年6月2日）
- ・神奈川県川崎市 新作小学校にて（令和6年7月13日）
- ・埼玉県大宮市 大宮図書館にて（令和6年8月11日） 等 計 17回実施



神奈川県川崎市「旭町子ども文化センター」  
（令和6年8月10日）実施の様子



神奈川県川崎市「新城こども文化センター」  
（令和7年1月25日）実施の様子

※マイタイムライン講習会・お天気魔法教室の開催実績につきましては以下の弊社ホームページに掲載しております。

(<https://www.office-weather.jp/info/lectures/>)

認定番号：82

サポーター名：公益社団法人全国土木コンクリートブロック協会

取組  
実績

- ①岩木川総合水防演習への参加及び展示ブースの設置
- ②三重四川連合総合水防演習への参加及び展示ブースの設置
- ③2024大規模津波防災総合訓練への参加及び展示ブースの設置  
→上述の取組について、協会発行の季刊誌に投稿し、広報活動を展開。



(写真：大規模津波防災総合訓練の応急復旧訓練及び展示ブースの様子)

認定番号： 83

サポーター名： アジア航測株式会社

取組  
実績

## ●災害発生時の緊急撮影による情報発信

水災害発生時における行政機関への情報提供とともに、一般住民に災害の恐ろしさを伝えるため朝日航洋株式会社と協働で災害緊急撮影を実施。

令和6年7月25日からの大雨による被害（伊吹山、山形県）

令和6年9月20日からの大雨被害（能登半島豪雨）

※WEBページ <https://www.ajiko.co.jp/disaster>

## ●流域治水ロゴマークの掲載

社員の名刺に流域治水のロゴマークを選択できるように注文システムを改修。また、防災分野の将来の担い手となる大学生に対し、令和6年10月3日に砂防学会東海支部主催のイベントに参加し、能登半島地震の災害緊急対応について発表（配布資料には流域治水ロゴマークを掲載）。

## ●地域共創流域治水（熊本県立大学ほか）に参画

熊本県立大学が代表機関となる「地域地域共創流域治水」に参画し、弊社が有する空間情報技術で取り組みをサポート。

※WEBページ <https://www.midori-lab.pu-kumamoto.ac.jp/>

認定番号：84

サポーター名：一般財団法人 日本気象協会

取組  
実績

●大雨や洪水による災害リスク情報「防災レポート」を発信  
— 大雨や洪水による甚大な被害が発生する可能性がある気象状況において、予想される災害リスクに対する注意喚起のため「防災レポート」を計8回発信。

要因	日付	タイトル	URL
台風第5号	8/9	台風第5号に伴う今後の大雨・災害の見通し（第1報）	<a href="https://www.jwa.or.jp/news/2024/08/23580/">https://www.jwa.or.jp/news/2024/08/23580/</a>
	8/10	台風第5号に伴う今後の大雨・災害の見通し（第2報）	<a href="https://www.jwa.or.jp/news/2024/08/23609/">https://www.jwa.or.jp/news/2024/08/23609/</a>
	8/11	台風第5号に伴う今後の大雨・災害の見通し（第3報）	<a href="https://www.jwa.or.jp/news/2024/08/23627/">https://www.jwa.or.jp/news/2024/08/23627/</a>
台風第10号	8/26	台風第10号に伴う今後の大雨・災害の見通し（第1報）	<a href="https://www.jwa.or.jp/news/2024/08/23676/">https://www.jwa.or.jp/news/2024/08/23676/</a>
	8/27	台風第10号に伴う今後の大雨・災害の見通し（第2報）	<a href="https://www.jwa.or.jp/news/2024/08/23710/">https://www.jwa.or.jp/news/2024/08/23710/</a>
	8/28	台風第10号に伴う今後の大雨・災害の見通し（第3報）	<a href="https://www.jwa.or.jp/news/2024/08/23730/">https://www.jwa.or.jp/news/2024/08/23730/</a>
	8/29	台風第10号に伴う今後の大雨・災害の見通し（第4報）	<a href="https://www.jwa.or.jp/news/2024/08/23777/">https://www.jwa.or.jp/news/2024/08/23777/</a>
低気圧・前線	9/20	前線に伴う今後の大雨・災害の見通し（第1報）	<a href="https://www.jwa.or.jp/news/2024/09/23919/">https://www.jwa.or.jp/news/2024/09/23919/</a>

— 天気予報サイト「tenki.jp」にて、大雨の状況など防災情報のポイント解説を発信。  
(発信例[https://tenki.jp/forecaster/t\\_yoshida/2024/09/02/30414.html](https://tenki.jp/forecaster/t_yoshida/2024/09/02/30414.html))

認定番号：84 サポーター名：一般財団法人 日本気象協会

## 取組実績

- ワンコイン浸水センサ実証実験への参加
  - 流域単位で水防対応を支援する防災気象情報サイト「流域気象情報」を通じて「浸水センサ表示システム」の情報を流域自治体の防災担当者や河川管理者へ提供。
  - ※別紙「流域治水の取組\_R6\_ワンコイン浸水センサ.pdf」参照
  - ワンコイン浸水センサ実証実験を継続し、洪水氾濫・浸水予測モデルの検証、精度向上に向けた取り組みを実施予定。



- 研究機関との気象・水象災害対策等に関する共同研究
  - 研究機関と共同で、長時間アンサンブル降雨予測の活用による河川管理施設の運用・操作等の高度化や線状降水帯の検知技術に関する研究を実施。
  - 研究機関との連携：<https://www.jwa.or.jp/news/2024/04/22747/>
  - 研究成果の例：<https://www.jwa.or.jp/news/2024/04/22898/>

認定番号： 85      サポーター名：株式会社ドーコン

## 取組実績

○自治体が運営する小中学生向けの教育支援施設（札幌市青少年科学館）に、土木・建築および都市環境、自然環境分野の仕事を幅広く紹介する展示を行った。

・札幌市青少年科学館 3Fの企業展示コーナーを利用した展示（左写真の左奥が弊社展示スペース）（<https://www.ssc.slp.or.jp/guide/floor/>）

## 5. 企業展示



左：札幌市青少年科学館HPより引用



右：弊社担当者撮影

認定番号：86 サポーター名：特定非営利活動法人水・防災機構

**取組実績** 私たちは、(公財)河川財団「河川基金」および(公財)かわさき市民活動センターの「かわさき市民公益活動助成金」のご支援を頂きながら、多摩川流域となる川崎市の子ども文化センターや小学校の放課後学習(寺子屋活動)の場で、「親子で学ぶ多摩川のお天気と防災」講座を計11回実施しました。講座の中では、洪水の話や大雨の危険だけでなく、流域治水についての取組の紹介などを加え、子ども達にも分かりやすく流域治水の必要性について説明し、学んでもらいました。

**親子で学ぶ 多摩川のお天気と防災**  
 気象予報士や川の博士と楽しく学ぼう!

日時 2024年12月8日(土) 13:30~15:00  
 場所 千代ヶ丘子ども文化センター(川崎市麻生区千代ヶ丘1-20-60)

●対象:小学生(保護者の付き添い可)  
 ●定員:30名  
 ※応募多数の場合は抽選となります  
 ●参加費:無料  
 ●お問合せ:千代ヶ丘子ども文化センター  
 (TEL:044-955-1535)  
 ●募集期間:2024年11月11日(月)~12月1日(日)  
 ●応募方法は裏面をご覧ください

講師  
 気象予報士 川の博士  
 大阪研究大学長 教授  
 ちはた 佳典  
 知花 政佳 先生

天気の不思議を発見!  
 いよいよ冬の気配が感じます!  
 ワークショップでは「嵐の嵐」をテーマに、  
 自然災害に備えよう!  
 自然災害に備えよう!  
 自然災害に備えよう!



主催 特定非営利活動法人水・防災機構  
 共催 公益財団法人かわさき市民活動センター 千代ヶ丘子ども文化センター  
 本講座は、(公財)河川財団の2024年度河川基金助成事業です。 河川基金

認定番号： 87      サポーター名： 特定非営利活動法人気象と地域防災フォーラム

## 取組実績

私たちは、（公財）河川財団「河川基金」を活用し、政策研究大学院大学の知花武佳教授を講師に荒川上流域学習ツアーを8月に開催しました。

また、国土交通省近畿地方整備局から当法人会員メンバーに対して委嘱を受けた「流域治水アンバサダー」の活動として、マイ・タイムライン講座での講師の派遣などを通じ、流域治水の地域住民への理解を深める活動に貢献しました。



認定番号：88 サポーター名：昭和コンクリート工業(株)

取組実績

○森林保全及び水田洪水貯留機能の関連イベントでの啓蒙活動  
 グループ企業が指定管理する岐阜県百年公園で開催する市民向けイベントで、水田の保全により洪水流出を抑制して流域治水に貢献できることを紹介した。また、田んぼダムに取り組むことによりその機能を増進できることを紹介した



認定番号： 89

サポーター名：旭洋設備工業株式会社

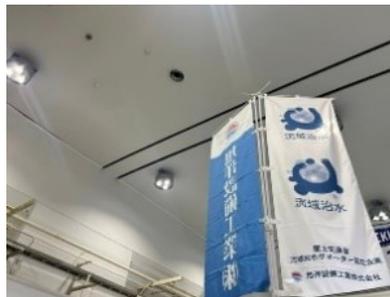
## 取組実績

○オリジナルデザインの流域治水カードを4種類作成し、本年度約7,000枚を配布した。カードにはQRコードを印刷し、国土交通省の『流域治水の推進』の説明ページへとリンクさせ、啓蒙活動を推進した。

配布先としては、弊社が出展した各展示会（EE東北、ハイウェイテクノフェア）等の来場者、高校生への就職説明会や求人関係の説明会、研修会、日常の郵送物への同封等地域住民の方々や営業取引先等多くの方々への配布を積極的に行った。



○上記の流域治水カードの作成、配布と同じように、流域治水のぼり旗や説明用のパネルなども複数作成し、展示会や会社の敷地、沿道沿い等一般の方々が目に触れるようなところへと設置、掲示し啓蒙活動を推進した。



認定番号：90 サポーター名：特定非営利活動法人ウェザーフロンティア東海

取組実績

- ・東海市平洲地区愛知県河川課協働事業「みずから守るプログラム」への参画
- ・清須市災害ボランティアコーディネーター向け研修会の実施
- ・清須市土田地区愛知県河川課協働事業「みずから守るプログラム」への参画
- ・岐阜県地域防災リーダー養成講座で気象防災に係る講座に講師を派遣（可児市、御嵩町、土岐市・瑞浪市（合同）の3ヶ所の講座に講師を派遣）

愛知県河川課「みずから守るプログラム」令和5年10月29日(日)

東海市平洲地区 第1回活動 木庭公民館

◎木庭地区周辺および大田川流域の地勢の成り立ち、水害の歴史、ハザードマップなどについて解説



・大田川流域の水害の歴史及び流域に発表された洪水時予想浸水深、浸水継続時間、家屋倒壊等危険区域について解説。この地域の災害地形の特徴を学習し、想定される水害のリスクについてまち歩き行い浸水時を想定して避難行動について考える。  
 ・新旧地形図、地盤高図、大田川の流域の地形の変遷、などを学習し、自分たちの住む町の水害リスクを把握するとともに、想定される水害リスクを正しく認識する。また、想定外も予測して、浸水リスクが現在小さいと思われる地区も、安心せず災害への準備を怠らないようにする。

◎手作りハザードマップの作成について、記入事項の項目や注意点等を解説。その後班毎に分かれてまち歩きへ(地域の水害危険箇所・避難ルート、いざというときに逃げ込める一時避難場所などをチェック)



・町内を班分けし、身近な危険箇所や、氾濫流の方向、水が早くたまる場所、一時的な避難場所をまち歩きで確認し地図に記入する。  
 ・各人で危険箇所をチェックし、家族や班単位で、避難行動する場合の安全な避難ルートを確認し、地図に記入する。



◎ 班ごとに記入したチェック項目をA1大の白地図に、意見交換しながら記入する



・まち歩きから帰った後、各テーブルで地図上にチェックしてきたことを記入し、付箋で注意点や地域の課題、要望等を書き加える  
 ・積極的に意見を出し合い検討して、要点をまとめて記入する。



◎ 各班の発表



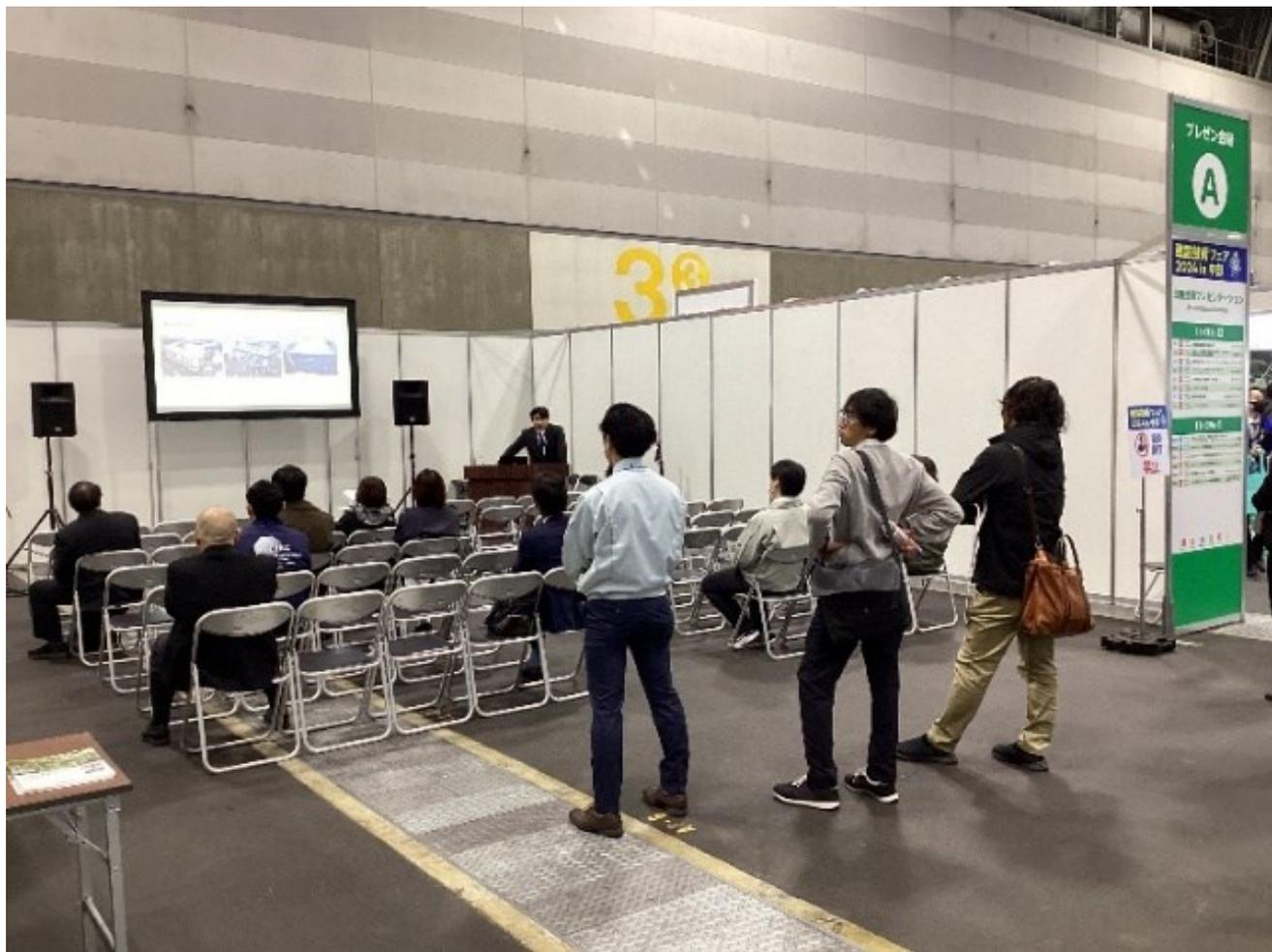
・班ごとにまとめた結果を各班の代表が地図を示しながら発表する。  
 ・各班の地区の特徴を参加者に説明し、意見交換しながらより適切な避難行動は何かについて考える



認定番号：91 サポーター名：日之出水道機器株式会社

取組  
実績

展示会のセミナーや、地方自治体・公共事業の設計コンサルタントに対しての勉強会等で、流域治水について説明を実施しました。



認定番号： 9 2

サポーター名： 特定非営利活動法人気象キャスターネットワーク

取組  
実績

・気象キャスターによる江戸川流域治水出前授業・イベント（河川基金助成事業）  
江戸川・中川・綾瀬川流域において、流域治水を子どもたちに伝えるための小学校出前  
授業と子ども向けイベントを実施  
（出前授業 5 回・子ども向けイベント1回（三郷排水機場））

認定番号：93

サポーター名：日本興業株式会社

## 取組実績

- 土木学会教育継続(CPD)プログラム認定の技術講習会開催
  - ・『流域治水対策における最新技術セミナー』(令和6年5月、7月開催)
  - ・『流域治水対策における最新技術および脱炭素コンクリートの最新動向セミナー』(令和6年10月、11月開催)

- 自社WEBページでの活動報告

URL：<https://www.nihon-kogyo.co.jp/information/2024/08/19/post-22.html>

- 流域治水の趣旨や取り組みなどを紹介するパンフレットの作成、頒布



**官民包括！ 幅広く流域治水対策の重要性や防災意識の啓蒙を図る！！** 実施者 日本興業株式会社

**取り組み内容(予定含む)**

- 各種イベント、セミナー、学会、講座、研修等での紹介
  - ⇒ 土木学会教育継続(CPD)プログラム認定の技術講習会を開催
  - ⇒ 『先進建設・防災・減災技術フェアin熊本』に出展
- 建設コンサルタントや建設会社の技術者に流域治水対策について様々な最新技術や情報が提供可能！
- 流域治水に関する広報資料の配布・掲示、アナウンス等
  - ⇒ 流域治水パンフレットの作成
  - ⇒ 防災イベントにてパンフレットを配布

官公庁、建設系企業に加え、学生や一般市民に対しても流域治水の趣旨・対策・取組を周知し、重要性や防災意識を高める！

**問い合わせ先** 日本興業株式会社 土木資材事業部 TEL 096-222-1111

- 防災イベントへの参加

『先進建設・防災・減災技術フェアin熊本2024』に出展

会場：グランメッセ熊本（令和6年11月20日～21日）

主催：先進建設・防災・減災技術フェアin熊本2024開催委員会





認定番号：95 サポーター名：一般社団法人北陸地域づくり協会

取組  
実績

1. 水害リスクや流域治水に関する知識の普及に向けた講演会等の開催  
月間・週間に合わせ防災・減災に資する講演会を開催。

①「土砂災害防止月間」防災講演会（6月17日）

「2022年村上豪雨災害の結果の解析から見えてきた崩壊・流木発生場の特徴」ほか



②「防災とボランティア週間」防災講演会（1月20日）

「液状化層の実態解明と今後の対策-2024年能登半島地震を例に-」ほか



認定番号： 95      サポーター名： 一般社団法人北陸地域づくり協会

取組  
実績

## 2. 防災エキスパート活動による水災害への対応支援

○ 令和6年度活動実績（R7.1末時点）

＜災害時＞ 出動なし

＜平常時＞ のべ463人

○ 主な活動： 水防訓練工法指導、国土交通省との合同巡視・意見交換ほか



水防訓練



合同巡視



認定番号：98

サポーター名：植村建設株式会社

取組  
実績

自社主催の市民防災体験会を開催し、会場に流域治水に関するパネル展示コーナーを設置し、来場者に見学してもらった。



認定番号：100 サポーター名：ケイセイマサキ建設株式会社

取組実績

● 自社Webページに流域治水ロゴマークとともに流域治水の趣旨、取組を紹介するページを作成、また、そのページに国交省及び関係機関の流域治水Webページへのリンクを貼り、流域治水の周知・啓発を図った。

Webページ：<https://www.keiseimasaki.jp/info/2024/0524080000.html>

● 社員名刺に流域治水ロゴマークと流域治水Webページリンク先のQRコードを印字し、流域治水の周知・啓発を図った。



(名刺表面)



(名刺裏面)

● 工事現場・事務所の周辺住民から見える箇所に、流域治水のロゴマーク入りのぼりを掲示し、流域治水の周知・啓発を図った。



認定番号：100

サポーター名：ケイセイマサキ建設株式会社

## 取組実績

● 鶴川・沙流川の「かわたびほっかいどう」サイクリングイベント（主催 日高サイクリング協会／協力 室蘭開発建設部）にボランティアとして参加し、開・閉会式時にのぼりを掲示するとともに、ロゴマーク入りTシャツを作成して走行し、流域治水の周知・啓発を図った。



認定番号：101 サポーター名：株式会社建設技術コンサルタント

取組実績

1. 九州地方整備局川内川河川事務所，大隅河川国道事務所，鹿児島国道事務所，鶴田ダム管理所等との災害協定に基づく対応

当社は，上記事務所との災害協定を結ぶとともに，所属する上位団体（鹿児島県測量設計業協会）等を通じた災害協力を行うこととし，下記の業務において災害復旧への協力を行った。

- ・鹿児島国道事務所：維持管理業務内における「CCTVカメラ移設検討」
- ・与論町：水路・道路災害査定用測量，ならびに資料作成

2. 近隣河川の氾濫時における避難所の提供

- ・公的避難所開設までのつなぎとして，当社社屋1階(近隣二級河川：甲突川より60m上位)を臨時避難所にする計画を立案した。
- ・報告対象期間内には，6月20日の線状降水帯発生予報，8月28日の台風10号に伴って，公的避難所が開設された。

※幸い，上記における公的避難所開設は難渋せず，当社による臨時避難所の提供は必要とならなかった。

認定番号：101

サポーター名：株式会社建設技術コンサルタント

取組  
実績

### 3. 河川に親しむイベント開催，ならびに流域治水に関する情報提供

#### 1) 川を学び，川を楽しむイベント「かわがく」の開催

日時：令和6年8月18日(日) 10時～14時

場所：鹿児島市犬迫町(二級河川甲突川右岸11k付近)

対象：成人50名，子供13名

目的：地域住民に，地域内を流れる甲突川沿いでの行事を通じ，河川に親しむ楽しさや，洪水氾濫による怖さ(流域治水)等の学習を目的とした。

詳細：a) 鮎釣り・つかみ取り， b) 鮎等の飲食， c) 河川にまつわるクイズ，  
d) 河川の学習， 親水活動， e) 河川敷の清掃



写真：鮎釣りの状況



写真：クイズ大会の状況



写真：清掃の状況



写真：イベント後の集合写真

認定番号：101

サポーター名：株式会社建設技術コンサルタンツ

## 取組実績

- 2) a)「甲突川リバーサイドフェス」への出展, b)SUP (スタンドアップパドル) 体験イベント開催
- 日時：令和6年9月21日(日) 11時～16時
- 場所：鹿児島市加治屋町（二級河川甲突川2k500付近）
- 対象：a)成人20名程度, 子供5人程度。b)成人16名, 子供1名。
- 目的：毎月実施の同フェスにおいて、独自開催より多くの市民に対して、河川に関する知識普及を行うとともに、河川内での「川遊び」により、河川に親しんでもらうことを目的とした。
- 詳細：甲突川リバーサイドフェスは、同運営委員会主催（鹿児島市観光戦略推進課後援）による、マルシェを主体としたイベントである。当社は、ここにポスター説明のブースを出展し、甲突川での災害や改修等に関する説明を行った。また、上記フェス会場が面する河川内にて、SUP体験イベントを開催し、参加者に河川に親しんでもらった。



写真：フェス出展状況(流域治水)

写真：SUP体験イベントの状況

認定番号：101

サポーター名：株式会社建設技術コンサルタント

取組  
実績

3) 鹿児島県河川関連部署へのポスター展示

日時：令和6年12月～

場所：鹿児島県庁

目的：鹿児島県の河川関連部署に、流域治水に関するポスターを展示して頂き、職員だけでなく一般来庁者にも「流域治水」や、「二級河川甲突川での氾濫、治水履歴」を知って頂くことを目的とした。

詳細：流域治水に関するポスター(下図参照)の存在を認知された鹿児島県河川課のお取り計らいで、土木部長室、河川課執務室に掲示して頂いた。



図：ポスター(令和6年11月22日オフィシャルサポーター交流会で展示したものと同じ)

認定番号：101

サポーター名：株式会社建設技術コンサルタンツ

取組  
実績

**4. 流域治水ロゴマークとWebのQRコードを記載した社員名刺作成および配布**  
 目的：ロゴマーク等を記載した名刺配付は、国、県、市町村、民間業者等、当社受注の関係者に対し、流域治水の推進にかかる協業を呼びかけることを目的とした。  
 詳細：ロゴマークの記載は、名刺を手渡す際に流域治水オフィシャルサポーターであること、流域治水に関する協業を訴えることを目的とした。他方で、名刺へのQRコード記載は実施しなかった。これは、QRコードの誘導先が、当社サイトへと流域治水公式サイトの二つとなることが紛らわしいと判断したためである。この代わりに、当社サイトに「流域治水の概要および公式サイト（国土交通省）への誘導」のコーナーを設け、流域治水の知識普及に貢献した。



(令和6年12月まで)名刺おもて面



名刺裏面



(令和7年1月以降)名刺おもて面



名刺裏面

認定番号：102

サポーター名：岩田地崎建設株式会社

取組  
実績

## 〈取り組みNO.1〉

- 北海道開発局札幌開発建設部札幌河川事務所との災害協定の締結
  - ・R6年7月26日 札幌河川事務所堤防決壊シミュレーション訓練（洪水編、地震編）出席

## 〈取り組みNO.2〉

- 企業等のWeb ページ、SNS、広報誌、ポスター等への情報掲載

## 〈取り組みNO.3〉

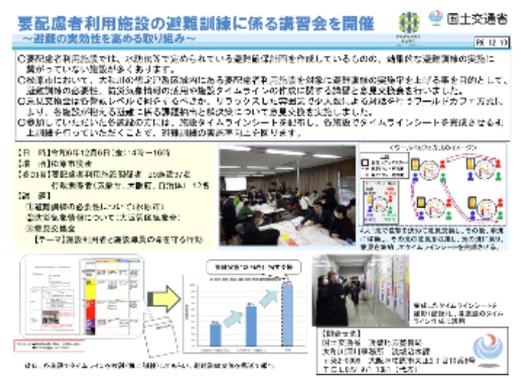
- 流域の上流地域と下流地域の連携を推進する取組
  - ・毎年3回（5月・7月・9月）に当社の災害防止協力会とともに豊平川右岸（上白石橋～平和大橋～東橋 間）の清掃活動を行う。



認定番号：103 サポーター名：八千代エンジニアリング株式会社

取組  
実績

- ①企業等のWeb ページへの掲載  
住民に防災を「自分事化」してもらうため、住民の水害意識を客観的かつ定量的に分析する手法を提案して、地域の住民の防災意識レベルがどの段階にあるかを把握した結果をわかりやすく整理して周知しています。  
※防災リスクコミュニケーションの促進（ホームページは今後も更新予定）  
<https://www.yachiyo-eng.co.jp/case/KH01041/>
- ②住民・地域のマイタイムライの支援・PR活動  
流域治水オフィシャルサポーター交流会において、住民・地域のマイタイムライの支援や防災アニマル診断活動を報告しました。今後、当社ホームページにも取組を報告します。
- ③要配慮者利用施設の避難訓練支援活動  
要配慮者利用施設では、効果的な避難訓練の実施に繋がっていない施設が多くあります。ワールドカフェ方式により、各施設が抱える避難に係る課題抽出と解決策について意見交換を実施しました（当社は意見交換の司会・運営を担当）。



認定番号：104

サポーター名：株式会社ヤマチコーポレーション

## 取組実績

●当社製品を通じて購読いただくWEBマガジン内で都市型水害を通じた啓発を行いました。

(<https://www.yyy-yamachi.com/myke/makewith/products-gravelfix/>)

●サステナブルWEBマガジン『雨は友達』をリリース  
雨水を大切にする啓発と共に、流域治水の周知を進めました。

(<https://www.yyy-yamachi.com/myke/products/12163/>)

(<https://www.yyy-yamachi.com/myke/products/12200/>)

(<https://www.yyy-yamachi.com/myke/products/12164/>)

●注目されるcolumnに流域治水の周知を深めるコメントをヘッダーに挿入し、あらゆる方面から周知を進めました。

(<https://www.yyy-yamachi.com/myke/news/15166/>)

(<https://www.yyy-yamachi.com/myke/products/5033/>)

認定番号：105 サポーター名：一般社団法人北部九州河川利用協会

取組実績

○現状では、流域治水に関する様々な広報活動やシンポジウム、イベントなどが、主に行政主導で行われている。そのような活動が一般住民に対してどれ程の効果と認知度を得ているか、また住民が流域治水に対して意識を持っているのかを把握するための調査を実施した。

(1) 意識調査の方法

流域住民団体が主催する座談会の場を借りて、参加者に対するアンケート調査の方法で、流域治水への関心や認知度を把握するための調査を行った。

アンケートの場：「緑川流域つなぐ座談会」（パンフレット参照）

アンケート総数：23人

日時：令和6年2月4日(日) 午後2時～5時

場所：熊本市 川尻公会堂

主催：緑川流域会議

支援：（一社）北部九州河川利用協会



新しい時代の人と川のかかり方を考える

### 緑川流域 つなぐ座談会

◆日時：令和6年2月4日(日) 午後2時～5時

◆場所：川尻公会堂 (熊本市南区川尻4-8-25)

◆参加費：無料 ※座談に限りがございます。申込が必要です。

川尻地域の先導的な運動を知り、流域における住民団体のこれまでの運動を取り返ること。さらに、緑川流域のこれからを考える』をテーマに、流域の自然環境や世代間の異なる文化、連携やこれからの担い手ともちろん次世代への伝承・育成のあり方など、緑川流域が抱える課題解決に向けて、市民が一緒になって幅広く意見交換をしたいと考えています。

パネルトークテーマ 『緑川流域のこれからを考える』

【主催】緑川流域会議  
緑川流域自然と文化の会、緑川流域水防・治水会、宇治町、藤井町、藤井町、宇治町、藤井町、山崎町、熊本県、国土交通省、熊本河川利用協会、(株)九州河川利用協会



**プログラム**

- 13:30～ 川尻流域治水 歩行者の心算、歩行者の心算、心算
- 14:00～ 緑川流域のこれからを考える (各団体の担当挨拶)
- 14:10～ 緑川流域会議の活動等 活動人員紹介
- 14:20～ 「阿蘇川おおのけの会」 活動紹介
- 15:00～ パネルトーク 『緑川流域のこれからを考える』 (パネリスト)
  - ・熊本市環境政策課 水防課長 藤井 浩一
  - ・熊本県国土交通部 河川課 課長 佐藤 隆
  - ・熊本県国土交通部 河川課 課長 佐藤 隆
  - ・熊本県国土交通部 河川課 課長 佐藤 隆
- 16:30～ 閉会

**アクセス**

【所在地】〒861-4115 熊本市南区川尻4-8-25  
【電話】096-357-6643 (川尻公会堂事務係)

【交通機関】バス→鹿児島バス・熊本バス乗場所「川尻駅(旧緑川)」から徒歩5分  
電車→JR九州「川尻駅」から徒歩15分

お申込み・お問い合わせ先  
緑川流域会議 事務局 (緑川流域事務局A)  
TEL 080-7959-2706 FAX 096-227-6764  
E-mail midokawaBJ@gmail.com

【緑川流域 つなぐ座談会】 申込書 (申込欄数: 10席 (1席につき1名))

ご住所	( )	〒	
氏名(かな)	( )	性別	
お名前	( )	交流	
住所	( )		
電話番号		FAX	
E-mail		申請者	( ) 不参加

認定番号：105

サポーター名：一般社団法人北部九州河川利用協会

取組  
実績

## (2) アンケート調査の結果

「緑川流域をつなぐ座談会」におけるアンケート調査結果を、以下に整理している。今回の調査で、地域住民が現在、流域治水に対してどのような意識を持っているかを大まかに整理すると以下のとおりである。

- ・流域治水の認知度は8割以上とかなり高かった。しかしながら「知っていたが中身は知らなかった」という回答が大半である。「流域治水」という「言葉」の認知度は様々なPR活動などを通じて広まってはいるが、内容まで認識している人は少ないという結果であった。
- ・今回の座談会に参加して「流域治水に対する意識が高まった」と答えた人が7割を超えていた。今後はこのような住民団体が主導する会議・イベントなどを通じて、川や流域治水に対する関心と意識を高めるような働きかけが必要と考えられる。（行政主導では限界がある）
- ・一方「浸水ハザードマップを見たことがありますか」という質問に対しては、約9割の人が「ある」と答えている。ハザードマップはTV・新聞などのマスコミや、自治体の広報などによっても頻繁に取り上げられ、その重要性が発信されているので、その活動の効果が表れたものと考えられる。
- ・同様に「洪水時の避難場所や避難経路を知っていますか」に対しても、8割近くの人が「知っている」と答えている。近年の、水害をはじめ地震・津波、土砂災害が頻発する状況のなかで、自治体の水防活動やPRあるいはマスコミ等の報道効果もあって、認知度がかなり高まっているものと思われる。

認定番号：106

サポーター名：東京海上日動火災保険株式会社

取組  
実績

- 取組No.1 出前授業「ぼうさい授業（水害・土砂災害編）」
  - ・主に小学生向けに出前授業「ぼうさい授業（水害・土砂災害編）」を実施した。  
(<https://www.tokiomarine-nichido.co.jp/world/egao/torikumi/try/lesson.html>)
- 取組No.2 避難や被害軽減を支援するサービスの提供を通じた  
水災に強い地域づくりへの貢献
  - ・法人向けに、事前に設定した拠点や取引先企業等の拠点において被災のリスクが高まった際にアラートを発信・通知するサービスを提供。
- 取組No.3 高知県・協働の森づくり事業「東京海上日動 未来への森」
  - ・高知県、安芸市と「協働の森パートナーズ協定」を締結しており、森林整備への支援のほか、社員がボランティアで間伐を行なった。  
(<https://www.tokiomarine-nichido.co.jp/world/greengift/forest/kochi/>)

認定番号：107 サポーター名：沖電気工業株式会社

## 取組実績

- ・河川監視用の水位計、カメラを河川関係者に提案を行い、河川事務所様へ流域の河川を監視するためのカメラを導入いただきました。
- ・センサーの監視を通して流域全体の状況把握についても提案を行い、関係者にご認識いただきました。



ゼロエナジーゲートウェイ高感度カメラ付

認定番号：108 サポーター名：大和ハウス工業株式会社

**取組実績** 大型賃貸物流施設の開発・運営をメインとする物流不動産開発において、浸水に関わるハザードを確認するとともに、建築物の浸水対策や雨水貯留浸透施設の設置等により、水災害リスク低減に努めます。また、自治体等との防災協定の締結も積極的に進めています。

○2024年12月2日 マルチテナント型物流施設「DPL群馬太田」が所在する群馬県太田市と「災害発生時における支援協力に関する協定書」を締結

(リリース：<https://www.daiwahouse.co.jp/about/release/house/20241202102833.html>)

○2024年6月24日 大型マルチテナント型物流施設「DPL境古河」竣工にあたり、茨城県境町と「災害発生時における支援協力に関する協定書」を締結

(リリース：<https://www.daiwahouse.co.jp/about/release/house/20240624155429.html>)



○（参考）全国各地の自治体との主な連携実績一覧

(<https://www.daiwahouse.co.jp/sustainable/social/contribution/agreement/index.html>)

認定番号：109      サポーター名：西日本技術開発株式会社

取組  
実績

- ① Webページ、広報誌、ポスター等への情報掲載
  - ・自社Webページに流域治水のページを掲載  
(<https://www.wjec.co.jp/>)
  - ・社員が使用するメールの署名欄に、上記Webページのリンク先を記載
  - ・社員の名刺に流域治水ロゴマークを記載
  - ・流域治水のパンフレット作成・配布
  - ・社内広報誌に流域治水の情報を掲載
  
- ② 勉強会等における流域治水の取組みの紹介
  - ・水環境・流域治水の社内講習会を開催

認定番号： 1 1 0      サポーター名：株式会社 吉田測量設計

取組 実績	・メルマガによる「流域治水の取組」を発信
----------	----------------------

認定番号： 1 1 1      サポーター名： 山国川流域森林組合

取組  
実績

- ・災害に強い森林づくりの推進
- ※河川沿い及び急傾斜地の森林整備

認定番号： 1 1 2      サポーター名：株式会社荏原製作所

取組実績	・沖縄県羽地大川改良区との災害協定に基づく真喜屋揚水機場3号ポンプの運転不具合調査、応急対応
------	--

認定番号：113

サポーター名：北土建設株式会社

取組  
実績

## ①自治体等との防災協定の締結、避難所としての場所の提供等防災活動への積極的な参加

## 【実績】

- ・札幌市中央区災害防止協力会主催の防災訓練に参加し、緊急輸送道路被害調査訓練、河川氾濫を想定した土嚢作成・設置訓練、台風等で一般道路が倒木で塞がれた事を想定した倒木伐採処理訓練を実施。

(<http://www.hokudo-c.co.jp/kp50io1q/#k170>)

- ・札幌市中央区災害防止協力会主催の河川美化活動に参加し、札幌市内中心部を流れる鴨々川周辺の草刈り・ゴミ拾い等の河川清掃を実施。

(<http://www.hokudo-c.co.jp/kp50io1q/#k174>)

## ②災害時における一時避難所の提供

## 【実績】

- ・BCP訓練を通して、災害時における対応、避難場所、備蓄用品を確認。

## ③WEBページにおいて流域治水に関する情報を掲載

## 【実績】

- ・WEBページにて情報発信。流域治水に関するページを作成し、情報を掲載。

▶トップページ (<http://www.hokudo-c.co.jp>)

▶流域治水の取り組み([http://www.hokudo-c.co.jp/ryuiki\\_chisui/](http://www.hokudo-c.co.jp/ryuiki_chisui/))

認定番号：113 サポーター名：北土建設株式会社

取組  
実績

## ④水害対策授業に協力

### 【実績】

- ・札幌市では、流域貯留施設を施工中の学校を対象に水害に対する意識醸成を目的とした授業を実施していることから、令和6年度本町小学校を施工している弊社も水害対策授業に協力。

(流域治水の取り組み-水害対策授業：[http://www.hokudo-c.co.jp/ryuiki\\_chisui/](http://www.hokudo-c.co.jp/ryuiki_chisui/))



防災訓練



児童向け説明会

認定番号：114 サポーター名：NPO法人信濃川大河津資料館友の会

## 取組実績

### ■ 主催講演会の会場内に「流域治水」パネルを掲示

#### 1. 総会講演会（5月25日）

会場：分水福社会館（新潟県燕市）

聴講者数：46名

講師：北陸地方整備局 信濃川河川事務所 副所長



#### 2. 友の会講演会（11月30日）

会場：分水公民館（新潟県燕市）

聴講者数：65名

講師：①北陸地方整備局 河川部長 ※講演内容に「流域治水の推進」を含む

②新潟地方気象台 防災管理官



※NPO法人信濃川大河津資料館友の会HP：<https://ohkouzu-tomo.org>

### ■ ロゴ入り名刺等の作成・使用

・ロゴ入り名刺を作成し使用（事務局長）→順次、使用者増の予定

・当会ホームページにロゴ掲載 ・広報誌「たより」にロゴ掲載